

■ 西武信用金庫

025-FY2022-01

ホームページ、ディスクロージャー誌を活用してのSDGsの普及啓蒙(意識向上)

【原則 4】

【特徴】

当金庫ホームページで発信するNews 記事やディスクロージャー誌などに活動に紐づくSDGsゴールのロゴを表示。

これにより職員は本業(日常業務)がSDGsに資するものであるという(環境や社会問題に対する活動)認識を持って活動していくという意識向上が図れ、ホームページや誌面を読まれたお客さまにおいても啓蒙を図っていくことが狙い。

※当金庫は2021年6月にホームページを更改しホームページ内に「地域密着ストーリー」というコンテンツを設けました(<https://www.shinkin.co.jp/seibu/about/blog/>)。

このコンテンツは職員が地域情報や日々の取組みをブログのように自ら記事を起案し発信できるもので、地域等の魅力や自らの活動を僚店や外部に発信でき、その活動がどのSDGsゴールに該当するか考えさせる機会となります。これにより職員のモチベーションを高めつつSDGsに資する意識向上、活動を実践していきたいものです。

※参考:ディスクロージャー2021.03

https://www.shinkin.co.jp/seibu/about/outline/disclosure/pdf/disclosure_2021_03.pdf

025-FY2022-02

信用金庫業界初「こどものみらい古本募金」への参画

【原則3】

【特徴】

内閣府の子供の未来応援国民運動「こどものみらい古本募金」(https://www8.cao.go.jp/kodomonohinkon/kikin/huruhon_bokin.html)の取組みに賛同し、2020年11月より当金庫15店舗窓口に専用の回収ボックスを設置いたしました。本取組みは、読み終わった本を活用した寄付プログラムで、次世代を担う子どもたちの未来につなぎ、応援するものです。

回収した古本は開始1年(2021年10月時点)で1,000冊を突破しました。

本プロジェクトを通してSDGs項目「1.貧困をなくそう」、「4.質の高い教育をみんなに」、「12.つくる責任つかう責任」に貢献してまいります。

025-FY2022-03

地域のフードロス削減に向けて株式会社クラダシと包括連携締結

【原則 5】

【特徴】

主に食に関する小売事業者の売上とフードロス削減・循環型社会の実現に向けて、社会貢献型ショッピングサイト「KURADASHI」の運営を行う株式会社クラダシと包括連携協定を締結。

連携後、当金庫の食に関するイベント「第15回物産・逸品WEBモール」でセミナー、商談会等を実施し、お客さまとマッチング支援(成約案件有り)

※ 社会貢献型ショッピングサイト「KURADASHI」

食品の賞味期限の切迫や季節商品、パッケージの汚れやキズ、自然災害による被害などで消費可能であり

ながら通常の販売ルートでの販売が困難な商品を買取り、販売する。

025-FY2022-04

SDGs・脱炭素の普及に資する商品の取扱い

【原則1】【原則2】

【特徴】

SDGsの推進や脱炭素の普及に資する商品の取扱いを通じて持続可能な社会創出に努めています。

具体的な商品は下記の私募債と制度融資。SDGsや脱炭素経営に積極的な事業者の資金調達手段としてその普及に努めています。

1. 『西武 SDGs私募債』

SDGs推進に取り組む企業のご支援および SDGsの普及拡大と、寄付を通じた地域貢献の一環として 2022 年 10 月から私募債の取扱いを開始。本私募債は下記の3タイプを用意。都内信用金庫に先駆けての取扱いになる。

(1) 企業応援型

SDGsに関連する公的認証・認定等を受けている発行企業を応援します。

(2) 寄付型

SDGsの達成を用途とする寄付を実施する発行企業を応援します
(寄付先については当金庫からご紹介します)

(3) 普及型

当金庫提携先等の支援により自社の CO₂ 排出量の算定(可視化)を行っている発行企業を応援します。

※ 参考:当金庫サイト

https://www.shinkin.co.jp/seibu/information/new/2022/sdgsshibosai_toriatuka_ikaishi.pdf

2. 制度融資『西武脱炭素支援』『西武 BCP 支援』

2022 年 10 月、東京都中小企業制度融資である金融機関提案融資として当金庫の 2 つの商品が採択されました。2 商品を通じて脱炭素や BCP に積極的に取り組む事業者を応援している。なお、脱炭素や BCP 策定に未着手の事業者には、持続可能な経営をはじめるきっかけとして提案している。

(1) 西武脱炭素支援

当金庫提携先の支援により CO₂ 排出量の算定(可視化)を行い、脱炭素に関する取組みを行うことと合わせて必要な資金を低利で融資します。

(2) 西武 BCP 支援

当金庫提携先の支援により BCP 策定支援を行っている企業のレジリエンス強化および必要な資金を低利で融資します。

※ 参考:当金庫サイト

https://www.shinkin.co.jp/seibu/information/new/2022/tyushoseidoyushi_kinyukikanteian.pdf

025-FY2022-05

自治体と連携した脱炭素社会創出への取組み

【原則3】【原則4】【原則5】

【特徴】

2022 年8月、神奈川県相模原市と脱炭素社会の実現に関する連携協定を締結。同市内の中堅・中小事業者の脱炭素経営へのスマートな移行を後押ししている。

具体的には、地域事業者に 2 コース(1.専門家への無料相談 2.制度融資の金利優遇)をご提案。いずれも「エコアクション21」(環境省が策定した環境マネジメントシステム)の普及促進を伴う提案で、自治体と地域金融機関による「エコアクション21」の推進体制の構築は、全国初の試みである。(協定締結時点)

締結概要

相模原市と連携・協力して市内の温室効果ガスを削減し、脱炭素社会の実現を図る。

協力事項

- 1.当金庫職員が、脱炭素社会の実現に向けた環境経営について学び、相模原市内事業者の先導者となって環境マネジメントシステム「エコアクション21」の普及促進を図ります。
- 2.脱炭素に取り組む相模原市内事業者にアドバイザーを派遣します。
- 3.相模原市内にエコアクション 21 認証登録事業者に対しての融資の金利を優遇します。
- 4.相模原市内事業者を対象に脱炭素推進に係るセミナー等を開催します。

取組概要

- 1.相模原市を営業エリアとする支店および本部職員は、エコアクション 21 の運営団体である一般財団法人持続性推進機構が行うエコアクション 21 に関する研修を受け、「エコアクション 21 環境経営ファシリテータ」の資格を取得します。
- 2.資格取得した職員は、市内事業者に脱炭素経営の推進を図ります。('エコアクション21」を基盤とした脱炭素経営への提案を行います)

025-FY2022-06

「子供の未来応援基金クリック募金」の導入

【原則3】【原則5】

【特徴】

「子供の未来応援基金クリック募金」(内閣府/子供の未来応援国民運動)の活動に賛同し、2022 年 6 月から当金庫ホームページで運動参画を呼び掛けている。

本クリック募金は、クリックするだけで(クリック者の金額負担なく)寄付につながる仕組みで、平時は当金庫小バナーから、毎月19(ワンクリック)日は、当金庫ホームページトップバナーから募る。なお、公式ホームページへの掲載など積極的な導入は金融機関では初の試みである。(導入時点)

なお、毎月 1,000 件(当金庫寄付上限金額相当)を超えるクリックがあり一定の成果がある。

子供の未来応援基金クリック募金概要

企業や個人から広く寄付を募る活動。集まった寄付は、公募・審査・選定した支援団体の運営資金として提供される。学習支援を行う団体や子供食堂、児童養護施設など、全国の支援団体に「子供の未来応援基金」が役立てられます。

※参考:子供の未来応援基金クリック募金(内閣府/子供の未来応援国民運動)サイト

<https://www.dff.jp/kodomohinkon/>

025-FY2022-07

女性後継者の会「SEIBU LADY LINK」

【原則 1】【原則3】【原則4】【原則5】

【特徴】

2022年7月、女性後継者の会「SEIBU LADY LINK」を発足。女性の社会進出(事業承継)の後押しをしている。中小企業における後継者難は喫緊の課題となっており、これは事業承継者を男性中心に考える伝統的な意識が強く、女性への事業承継に向けた支援メニューが不足していることが要因の一つと考察される。この課題に対し、当金庫は後継者難に悩むお客さまに、女性に事業を承継させる意識の醸成を促し、事業の継続と成長を積極的に支援し、多様な課題に寄り添い提案できる人材育成も目指している。

■ 静清信用金庫

027-FY2022-01

環境基本方針の制定および「せいしん SDGs 宣言」の公表

【原則1】

静清信用金庫では、環境問題への取組みを企業の社会的責任と認識し、当金庫の取組みが地域社会における環境対策の一助として拡がりを見せることができればと考え、2003 年より様々な環境活動を実施してきました。

2009 年 6 月には、環境問題への取組みに関する基本的な考え方を示す「環境基本方針」を制定し、電力やガソリン、コピー用紙の使用量削減等に継続して取り組んでおります。

(<https://www.seishin-shinkin.co.jp/about/environment/policy.html>)

2019 年 2 月には、これまでの活動を一層強化するとともに、国連が提唱する持続可能な開発目標(SDGs)を経営の柱の一つに加えるべく、SDGs に関する取組方針や重点推進項目をまとめた「せいしん SDGs 宣言」を公表いたしました。

(<http://www.seishin-shinkin.co.jp/about/sdgs>/<https://www.seishin-shinkin.co.jp/about/environment/policy.html>)

027-FY2022-02

環境配慮型金融商品の取扱い

【原則 5】

当金庫は、様々な環境配慮型金融商品の取扱いを通じ、地域の皆さまとともに環境問題に取り組むことを目指しております。主な商品は以下のとおりです。

ア. せいしん「環境格付融資Ⅱ」・せいしん「地元応援融資 成長サポート」

- ・ 省エネ設備等の導入や、環境・エネルギー事業といった成長分野への進出を希望する事業者の皆さまをサポートする融資商品を取扱っております。

イ. SDGs サポートローン

- ・ 事業者の SDGs 取組み支援を目的とし、2019 年 12 月より取扱いを開始いたしました。静岡市の独自制度である「静岡市 SDGs 宣言書」を作成・届出した法人/個人事業主を対象とし、資金使途は「SDGs 達成に向けた取組みに必要な設備資金・運転資金」としました。

ウ. せいしん自動車ローン「グッド」・せいしん「リフォームプラン」

- ・ エコカー購入や太陽光発電システムなどエコ関連設備等にかかる資金に対し、金利優遇を行っております。

エ. 環境活動参加型定期預金・SDGs 応援定期預金

- ・ 2007 年度より、販売総額の一定割合を環境団体等に寄付する仕組みを取り入れた定期預金を取扱っております。
- ・ 2019 年より、SDGs の取組みを地域に普及・促進させることを目的に、定期預金「せいしん SDGs 応援定期預金『GOALS』」を販売し、販売総額の一部を SDGs に取組む団体に寄付する仕組みを取り入れております。その後も『GOALSⅡ』『GOALSⅢ』等を続けて販売し、地域の SDGs 取組み普及に努めております。

【特徴】

- ・ 2007 年度より継続している寄付金総額は 6,497 万円となりました。この寄付金は、地域の環境保全活動や県内小学校へ出張環境授業や子供向け普及啓発冊子の作成など、有効にお役立ていただいております。
- ・ 『GOALS』を成約いただいたお客さまに、「みんなの SDGs 宣言」「地域の SDGs 宣言」(※)などを記入いただきました。この宣言内容を取り纏めた結果は、SDGs に積極的に取組む静岡市に提供しており、今後の SDGs に関する施策展開に役立てていただく予定です。
(※)SDGs の 17 のゴールの内、関心がある項目または取組む項目を選んで記入するシート
- ・ 2022 年 6 月～8 月に販売した SDGs 応援定期「チャレンジ!ゼロカーボン」では、チラシに「家庭でできるゼロカーボンアクション」を 30 項目掲載し、誰もが取り組める活動としてのメッセージをお客さまにお伝えしました。

027-FY2022-03

「静岡市河川環境アドプトプログラム」への参加

【原則3】

環境貢献活動の一環として、静岡市と合意書を交わし「静岡市河川環境アドプトプログラム」の活動を継続実施しております。本部全役職員が参加し、安倍川河川敷に散乱しているゴミなどの除去作業を行っております。

027-FY2022-04

社内表彰制度「GREEN 表彰」の実施

【原則 3】

当金庫では、本支店に「エコリーダー」を配置するとともに、全役職員をあげて地球温暖化防止に向けた活動を日々計画的に実施しております。

【特徴】

当金庫独自の社内表彰制度「GREEN 表彰」を設け、各店が趣向を凝らして実施した活動を毎年審査・表彰しております。この活動は 2009 年度から取組んでおり、審査に協力いただいている「静岡県地球温暖化防止活動推進センター」より、独自性ある取組みとして高い評価を受けております。

027-FY2022-05

SDGs に取組む企業・団体の組織化

【原則5】

SDGs に取組む企業・団体の連携を図り、実効ある経営に繋げるための組織 SSC (Shizuoka SDGs Community) を令和 4 年 3 月に発足しました。SDGs に取組む様々な業種を対象としており、当金庫の取引企業 50 社以上が加盟し、地公体や環境保全団体など 6 団体にオブザーバーとしてご参加いただいております。SSC では、会員交流機会の創出、会員企業の取組強化を支援する活動を行っております。

【特徴】

チャットサイトを介して SDGs に関する情報提供や会員企業紹介を行っています。また、定期的に情報交換会を開催し、会員企業が実施している SDGs 取組の PR、課題、連携したい業種などについて意見交換を行い、会員企業の課題解決に繋げてまいります。

■ 京都信用金庫

034-FY2022-01

「SR・環境宣言」の制定

【原則1】

平成 24 年 6 月、「SR(社会的責任)・環境宣言」を制定しました。地域とともに SR・環境活動に取り組むために、当金庫の全役職員及び地域に対して SR 及び環境に関する当金庫の基本理念と方針を示すものです。

当金庫は「持続可能な発展への貢献を最大化」することが最重要課題のひとつであることを認識し、「かけがえのない地球環境」を守り、エココミュニティの発展に全力で取り組んでまいります。

034-FY2022-02

環境配慮型金融商品の取扱

【原則2】

個人のお客様向けには「ECO 優遇サービス」や節電支援ローン「エナジーセーブ」、といった商品を取り扱っています。また、投資信託では、環境関連ファンドである「損保ジャパン・グリーン・オープン(愛称:ぶなの森)」、脱炭素関連ファンドである「脱炭素テクノロジー株式ファンド(愛称:カーボン ZERO)」を取り扱っています。

034-FY2022-03

環境啓発活動

【原則3】

地域の皆様に当金庫の環境への取組を紹介しながら、ともに環境への関心を高めたり、科学の面白さを知っていただこうと、地域の小学生を対象にした「夏休みイベント」を開催しています。

034-FY2022-04

森林保全活動

【原則3】【原則5】

①「京都信用金庫 絆の森」

滋賀県の琵琶湖森林づくり条例に基づき、地元の森林組合と「琵琶湖森林パートナー協定」を締結し、地域と協働で琵琶湖の清らかな水を育む森林を守る活動を推進しています。

協定に基づき、組合の所有する森林の一部を「京都信用金庫 絆の森」と名づけ、当金庫役職員とその家族が草刈や植林などの森林保全活動に取り組んでいます。

②「フォレスト・サポーターズ」への参加

平成 23 年 5 月より、美しい森林づくり推進国民運動「フォレスト・サポーターズ」に参加しています。

034-FY2022-05

地域の清掃活動

【原則3】【原則5】

① 地域の清掃活動

各店舗で、地域の一員として NPO 法人や町内会など、地域の皆様と協働で近隣の清掃活動を行っています。

② 河川の清掃活動

環境保全活動の一環として、平成 23 年より大阪府と京都府の河川で、NPO 法人をはじめとする地域の皆様とともに清掃活動を行っています。大阪府では交野市と枚方市を流れる天野川において、シジミ、アユ、ホタルが生息できる清流にすることを目標に清掃活動に取り組んでいます。京都府では京都市を流れる桂川と山科川で活動に取り組んでいます。

034-FY2022-06

KES・環境マネジメントシステム・スタンダード・ステップ2SRの認証取得

【原則6】

平成 22 年度より、京都から立ち上がった全国規模の環境マネジメントシステム「KES・環境マネジメントシステム・スタンダード・ステップ 2」の認証を取得しています。

さらに平成 24 年 10 月、持続可能な発展への貢献を最大化するために、従来の環境マネジメントシステムに ISO 26000 の要素を導入した新規格「KES・環境マネジメントシステム・スタンダード・ステップ 2SR」の認証を全店舗で取得しました。

SR・環境マネジメントシステムの構築により、当金庫の活動及び金融商品・サービスに係る SR 活動の向上及び環境影響の低減を推進し、役職員一人ひとりが積極的に SR・環境活動に取り組んでいます。

034-FY2022-07

環境に配慮した店舗づくり

【原則6】

店舗の新築、改修の際に環境に配慮した店舗づくりを行い、事業活動から生じる環境負荷を最小限に抑えるため、「店舗新築、改修における環境基準」を制定しています。

平成 26 年 4 月に新築オープンした桂川支店では当金庫で初めて屋上緑化に取り組みました。地元の高校生が開発した京都固有のノシバを使った屋上緑化システムを導入し、生物多様性にも配慮しています。

034-FY2022-08

紙製のショッピングバッグとオリジナルエコバッグをノベルティに採用

【原則6】

プラスチックごみ削減のため、地域の皆様に環境を大切にしてくださいときっかけになればと「紙製のショッピングバッグ」と「オリジナルエコバッグ」の普及に努めています。

034-FY2022-09

「SDGs宣言」の制定

【原則 1】【原則 2】【原則 6】【原則 7】

SDGs が目標としている「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現に貢献するため、コミュニティ・バンクの理念に基づき本業である金融サービスの提供を中心に地域から世界へ貢献することをめざし、その決意を表す「SDGs 宣言」を 2019 年 8 月に制定いたしました。

034-FY2022-10

職員が健康で働きやすい職場づくりと地域社会への健康経営の推奨

【原則 1】【原則 4】【原則 5】【原則 7】

コミュニティ・バンクの一員として地域のお役に立つことを考え行動するためには、役職員が健康で楽しく、毎日「働き甲斐」「生き甲斐」をもって仕事に取り組むことが必要不可欠であり、また役職員とその家族が健康で充実

した生活を送ることで最良のパフォーマンスが発揮できると考えています。役職員一人ひとりが生き生きと活躍できる金融機関をめざし、2019 年 11 月に「健康経営宣言」を制定し、役職員とその家族、地域の皆様や地域社会の健康に取り組んでいます。

034-FY2022-11

地域のイノベーションを支援するファンド「イノベーション C ファンド」を設立

【原則2】

当ファンドは、当金庫営業エリア内の起業家やイノベティブなサービスやビジネスモデルにより地域経済の活性化に挑戦する企業へ資金を供給することで、当該企業の成長および社会課題解決等の実現に寄与することを目的としています。地域にイノベーションを起こす企業へのあらゆるサポートを行い、地域の絆づくり活動に取り組んでいます。

034-FY2022-12

世界初の禁煙ソーシャル・インパクト・ボンドへの投資

【原則1】【原則2】

2019 年 11 月に新店舗を豊中市にオープンしたことをきっかけに、豊中市のお客様へ健康経営の普及を促し地域経済の活性化に貢献していくため、ESG 投資であるソーシャル・インパクト・ボンドに対し投資を行いました。

【特徴】

民間資金を活用して社会課題を解決する新たな民間連携手法であるソーシャル・インパクト・ボンドへの投資は、信用金庫として初めての取組となります。

034-FY2022-13

日本学生支援機構が発行する「ソーシャルボンド」へ投資

【原則1】【原則2】

2020 年 6 月、独立行政法人日本学生支援機構が発行する「ソーシャルボンド」への投資を実施。当金庫では、本債権を始めとしたグリーンボンド・ソーシャルボンド(SDGs 債)への投資を継続的に実施することで、今後も社会的役割を果たしてまいります。

034-FY2022-14

ハチドリ電力を導入

【原則3】【原則5】【原則6】

「ハチドリ電力」とはCO₂ゼロの実質自然エネルギー100%で、火力発電による排出されていたCO₂を削減し、地球温暖化の防止に貢献しています。また、NPO 法人を始めとした社会活動に取り組んでいる個人・法人に、電気料金の1%を支援しています。この環境と社会のより良い未来のために、今わたしたちに出来ることとして「ハチドリ電力」を導入します。

034-FY2022-15

Community Building 「QUESTION」

【原則1】【原則2】【原則3】

地域の人と人、事業と事業をつなぐ温かい交流の場を目指した Community Building です。地域にある様々な社会課題や中小企業が抱える事業の課題、創業間もない起業家の課題、将来に希望と不安を抱える学生の課題を、当金庫とパートナー企業が一緒になって解決していくことをコンセプトに、豊かな地域社会の共創を目指します。

034-FY2022-16

ソーシャル企業認証制度 S認証

【原則1】【原則2】【原則4】【原則5】

ESG 経営や社会課題の解決を目指す企業に対し、経営方針や事業内容、社会的インパクトなどを基準に、評価・認証を行う制度を2021年4月に開始しました。事業活動の社会的インパクトを可視化し、地域社会におけるソーシャルマインドの醸成や持続可能な地域社会の実現を目指します。

034-FY2022-17

京信ソーシャル・グッド預金

【原則1】【原則2】【原則3】

預金者に預入いただいた資金を、社会課題解決に取り組む地域企業の融資に振り当てる定期預金商品「京信ソーシャル・グッド預金」の取り扱いを、2022年1月より開始しました。社会課題解決に貢献したいという預金者の思いと、課題解決に取り組む地域企業とをつなげる仕組みを持った預金商品です。

034-FY2022-18

京信ソーシャル・グッド融資

【原則1】【原則2】【原則3】

ソーシャル企業認証制度 S 認証の認証企業、及び、ソーシャルビジネスを営む企業や個人事業主に対して、優遇条件にて融資を行う「京信ソーシャル・グッド融資」の取り扱いを、2022年4月より開始しました。京信ソーシャル・グッド預金によって預入いただいた資金を、地域のソーシャル企業に還元することによって、預金者と事業者をつなぎ、地域のソーシャルマインドの醸成や持続可能な地域社会の実現を目指します。

034-FY2022-19

「Umekoji MArKET」、「QUESTION 梅小路」

【原則1】【原則2】【原則3】

当庫と地元企業、官民ファンドなどが連携し、再開発が進む「梅小路京都西駅エリア」を多様なバックグラウンドを持つ人々が集まり交流することでイノベーションが創発される「クリエイティブタウン」にするための取組を行っており、2022年5月、この取組の第一号拠点として、「Umekoji MArKET」を開業しました。

3階建てのこの施設は、地域の製造事業者がデジタルマニュファクチャリング(デジタル×製造業)を実践する場であり、モノづくりからクリエイティブタウン化を推進する拠点です。2階には「京都信用金庫 QUESTION 梅小路」があり、金庫のスタッフが「コミュニティマネージャー」として常駐し、モノづくり関係者、アーティストや社会起業家など多様な人々をつなげる交流・発信の拠点となっています。

034-FY2022-20

シェアサイクルサービスポートの設置

【原則1】【原則3】【原則5】

京都市に本社を置くシェアサイクル運営会社のシェアサイクルサービスのポート(自転車の貸出・返却拠点)を、京都市内20店舗以上に設置しました。脱炭素社会の実現、移動しやすい街・住みやすい街の構築、公共交通機関の混雑の緩和への寄与などを目的にしています。

034-FY2022-21

使用済衣服の回収&循環プロジェクト「RELEASE⇄CATCH」

【原則1】【原則3】【原則5】

家庭で不要になった衣服を回収する回収 BOX を、地域の各拠点に設置しました。回収した衣服のうち再利用可能なものを販売・寄付することにより、地域で循環させる仕組みを創出し、また、不用品の回収と再利用の活動を広げることで、リユース、リデュース、リサイクルの意識を地域の中で醸成することを目指します。

034-FY2022-22

「京都こども宅食プロジェクト」への協力

【原則1】【原則3】【原則5】

京都市や社会福祉法人との連携協定により発足したプロジェクトで、生活困窮家庭に対し、定期的に食品を届ける取組です。食品を届けることを通じて家庭を見守りながら、必要に応じて様々な支援につなげることを目指します。

034-FY2022-23

ノベルティの全面エシカル化

【原則1】【原則3】【原則6】

当金庫がお客様に提供するノベルティを、原則として、再生素材を利用したものや、環境認証を受けたものなどのエシカルなものに全面的に変更しました。お客様に対しては、各ノベルティのエシカルである点をご説明し、地域のソーシャルマインドの醸成につなげています。

■ 中日信用金庫

036-FY2022-01

「エコ設備投資応援ローン」の取扱い

【原則1】【原則2】【原則3】

愛知県信用保証協会と連携し、省エネ、省電力、環境に配慮した設備投資等の資金について融資する金融機関提案型の商品。他商品より金利の設定を低くしています。また、事業計画策定のお手伝いや、計画の進捗状況のフォローアップ、課題解決のためのソリューションの提供など、必要に応じて外部専門機関とも連携のうえ、顧客の経営支援をしています。(2015 年 8 月～)

036-FY2022-02

エコ定期「私はCO₂削減を宣言します！定期」の取扱い

【原則1】【原則3】

環境省が推進していた「私のチャレンジ宣言」(1 人 1 日 1kg CO₂削減)キャンペーンに賛同し、チャレンジ宣言カードをご持参の方に預金金利を優遇するもの。また、預入残高に応じ当金庫が環境保全団体へ寄付することで、預金者は間接的に寄付に参画できる仕組みとしました。(2007 年 8 月～2008 年 9 月)

【特徴】

この取り組みを通じ「私のチャレンジ宣言」の参加者を増やし、CO₂削減の行動を後方支援しました。

036-FY2022-03

「生物多様性について考えてみませんか定期」の取扱い

【原則1】【原則3】

地元名古屋での COP10 開催(2010 年)を控えた 2009 年、インパクトのある名称の定期預金を取扱い、チラシや店頭で生物多様性に関する情報提供や店内装飾をすることで、当時認知度が低かった生物多様性や COP10 について、地元の関心を高めました。また、預入残高に応じ当金庫が「COP10 支援実行委員会」等へ寄付する仕組みとしました。初回リリースは「国際生物多様性の日(5/22)」としました。(2009 年 5 月～2010 年 10 月)

【特徴】

生物多様性や COP10 について地元で関心を高める契機となり「生物多様性日本アワード」優秀賞を受賞しました。

036-FY2022-04

法人格付における「生物多様性」に配慮した取組みの評価

【原則1】【原則3】

取引先企業の生物多様性保全に配慮した取組みを評価し、法人格付に反映する仕組みを導入しました。中小・零細企業が多いため、評価する内容は簡便なものとし、取り組みやすいものにしました。(2010 年 4 月～)

【特徴】

法人格付アップは融資金利が有利になるため、企業の生物多様性保全に配慮した行動の動機付けにつながっています。

036-FY2022-05

エコビジネスローン「元気くんG(グリーン)」の取扱い

【原則1】【原則3】

生物多様性や環境に配慮した取組みに関する資金について、無担保で融資する商品。当金庫の他の無担保商品より金利体系を低く設定しています。また、当該企業の生物多様性や環境に配慮した取組状況によって、さらに金利を優遇しています。(2010 年 6 月～)

【特徴】

企業の生物多様性や環境に配慮した行動を、融資金利優遇の形で後方支援しています。

036-FY2022-06

地元中学校に対する生物多様性参考図書寄贈

【原則1】【原則3】

名古屋市中、当金庫の本支店の在する市町の全公立中学校に対し、生物多様性関連の啓発図書を寄贈しました。(2012 年 5 月)

【特徴】

将来を担う若い世代に対し、生物多様性の重要性に関心をもってもらうきっかけ作りの役割を果たしました。

036-FY2022-07

「つなげよう！生物多様性 定期」の取扱い(2012 年 2 月～2012 年 4 月)

【原則1】【原則3】

「生物多様性について考えてみませんか定期」(2009 年 5 月～2010 年 10 月)のリニューアル版として、取扱いを再開しました。2010 年に地元名古屋で開催された COP10 終了後も引き続き、地域の方々に生物多様性への関心をもっていただく目的で取扱いをしました。「生物多様性について考えてみませんか定期」同様に預入残高に応じ、生物多様性保全を支援する団体等へ寄付する仕組みとなっています。

036-FY2022-08

「みどりいっぱい！定期」の取扱い

【原則1】【原則3】

名古屋市中における都市緑化活動等を行っている団体等とタイアップし、当定期預金の取扱いを通じ、都市緑化活動への啓発等を行った。また、預入残高に応じ当金庫がその団体等へ寄付を行う仕組みとした。

年度	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
月	5 月～7 月	5 月～7 月	5 月～7 月	6 月～8 月	6 月～7 月	6 月～8 月	6 月～8 月	6 月～8 月

036-FY2022-09

名古屋市で開催される「持続可能な開発のための教育(ESD)」に関するユネスコ世界会議」への寄付

【原則1】【原則3】

「ESD に関するユネスコ世界会議」は、環境問題などの現代社会の課題等を身近なところから取組むことを目的としており、地域において話題等にするに努め、少しでも普及啓発の役に立ちたいと考え、寄付をしました。(2014 年 6 月)

036-FY2022-10

環境に配慮した商品(消費者ローン)の取扱い

【原則2】

- ・「エコカー減税」対象車の新車購入資金に係る自動車ローンについて、低廉な金利・保証料設定での取扱い。(2009年5月～)
- ・太陽光発電等のエコ関連の購入、設置に係るリフォームローンについて、低廉な保証料設定での取扱い。(2013年1月～)

036-FY2022-11

環境配慮型店舗の開設

【原則5】

西春支店開設(2006年10月)をはじめ、清洲支店(2010年12月)、尾張旭支店(2011年12月)、名古屋支店(2013年4月)、名東支店(2014年7月)、中川支店(2015年12月)と、店舗新築の都度、太陽光発電システム、風力発電システム、駐車場の壁面・路面緑化、LED 照明設置等、環境に配慮した店舗設計としています。

036-FY2022-12

電動バイクの導入

【原則5】

本店および西春支店に「電動バイク」を3台導入し、二酸化炭素の排出削減に役立てています。(2010年3月～2019年3月)

036-FY2022-13

景品袋の廃止

【原則5】

近年、「プラスチックごみ」による海洋汚染が世界中で問題視されており、コンビニや小売店等でレジ袋が廃止・有料化されたことなどを踏まえ、当金庫においても SDGs への取り組みの一環として、石油原料の「景品袋」を廃止しました。(2020年7月)

■ 大和信用金庫

287-FY2022-01

スポーツ振興による地域の活性化

【原則5】

地元サッカーチームである JFL 所属奈良クラブが地域交流・サッカー育成拠点の新施設を建設することとなり、当金庫も産官学金連携事業である「新拠点プロジェクト」に参画しています。

新拠点では、地域の子どもたちの交流イベントやスポーツ教室の開催も計画されており、新たなスポーツ施設となるだけでなく、観光とスポーツを組み合わせたスポーツツーリズムの推進に繋がります。

奈良クラブはサッカーを通じて地域に貢献するチーム創りをされており、当金庫についても広報活動や観客動員の集客に協力することで、地元サッカーチームを全面的に支援し、奈良県全体の地域活性化に取り組んでいきます。



【特徴】

- 三郷町:まち・ひと・しごとの創生にかかる連携協定
- 産官学金連携事業(産:奈良クラブ、官:三郷町、学:奈良学園大学、金:大和信用金庫)

287-FY2022-02

産官学金連携による宇陀市地域特産品「大和当帰葉うどん」の創出

【原則3】

宇陀市は、当金庫からの提案により香川県の石丸製麺株式会社と協力し、地域特産品である大和当帰の葉を練りこんだ地域特産品「大和当帰葉うどん」を創出しました。

当金庫は、3 年前に高松信用金庫の紹介で全国の特産品を使ったうどんを開発されている石丸製麺株式会社を訪れており、当金庫より地域特産品である大和当帰を練りこんだうどんの開発を宇陀市に提案したことがきっかけで、3 年の開発期間を経て「大和当帰葉うどん」が誕生しました。



【特徴】

- 宇陀市:まち・ひと・しごとの創生にかかる連携協定
- 産官学金連携事業(産:石丸製麺株式会社、官:宇陀市、学:星薬科大学、金:大和信用金庫)

287-FY2022-03

大和川の水質改善応援定期預金「大和川定期預金」の取扱い

【原則1】

全国一級河川の中で、水質ワーストワンが続いていた大和川の水質改善を願い、BOD値の改善度合いによって、定期預金の金利を上乗せする「大和川定期預金」を2006年より取り扱っています。

なお、2020年度以降につきましてはコロナ禍であることを踏まえ、取り扱いを見合わせています。

【特徴】

大和川の水質改善が進み、これまでに10の環境各賞を受賞しています。

287-FY2022-04

女性起業家セミナーの実施

【原則5】

令和3年11月18日に奈良県と当金庫の共催により「令和3年度 第1回女性起業家セミナー～身近な気づきを事業へ～」を開催いたしました。

本セミナーには、起業に興味のある女性の方を中心に100名以上に参加いただき、株式会社サンクラッド代表取締役馬場加奈子氏の基調講演や先輩女性起業家のトークセッション形式の事例紹介を実施いたしました。今回、講演いただいた株式会社サンクラッド代表取締役馬場加奈子氏は、高松信用金庫の創業支援アドバイザーを務めておられ、当金庫が高松信用金庫を通じて奈良県に紹介したことで実現いたしました。



【特徴】

株式会社サンクラッドは、当金庫も取り組む「制服回収ボックス」の設置を始めた企業であり、当金庫はこの取り組みを通じて同社および高松信用金庫と以前から連携しています。

また、同社代表取締役である馬場加奈子氏は、これまでの障がい者、高齢者、子ども支援活動の取り組みが評価され、「内閣府男女共同参画女性のチャレンジ賞」、「循環型社会形成推進功労者環境大臣賞」など多数受賞されています。

■ 桐生信用金庫

056-FY2022-01

カーボンオフセット通帳の導入

【原則2】

2011 年 2 月より、計 6 種類の通帳を群馬県内の金融機関で初となる「カーボンオフセット」を利用した環境配慮型通帳に切り替えを行いました。当金庫が発注した通帳の製造工程で発生する CO₂を計量し、その排出量に見合う削減活動を、カーボンオフセットプロバイダーに依頼して実質排出量を相殺(オフセット)させる仕組みです。

【特徴】

オフセットの仕組みを通帳に組み入れました。

056-FY2022-02

「地球温暖化防止計画」策定、「環境問題取組方針」の制定、「群馬県環境GS」の認定

【原則5】

当金庫が独自に策定した「きりん地球温暖化防止計画」に基づき、2008 年度より電力・ガソリン・コピー用紙の使用量を毎月全店舗から報告させ、使用量の削減に向けた取組みを行っています。2009 年度比▲19.0%を目標としていましたが、すでに全項目で目標を達成しており、独自の目標を設定することでさらなる削減を目指しています。また、2011 年度からは、環境問題への取り組み姿勢をより地域の皆さまに知ってもらうため、「環境問題取組方針」を制定したほか、新たな金庫統一の取組みとして、群馬県内の全ての店舗、および出張所が「群馬県環境 GS(ぐんまスタンダード)」に申請・認定を受け、継続 17 年目となっています。

056-FY2022-03

店舗照明のLED化・太陽光発電システムを導入・ZEB 対応店舗での営業

【原則5】

移転新築や建て直しをした店舗では、太陽光発電システムや全照明の LED 化を進めています。現在、当金庫の太陽光発電システムの導入店舗は 9 店舗(大泉・玉村・相生・川内・薮塚・久宮・新田・新桐生、きりん太田スクエア)、店舗内照明については平成 25 年 5 月に新築移転した玉村支店を皮切りに、その後改装や建て替えを行った店舗の照明は全てLEDとしています。

また、令和 4 年 10 月 11 日にオープンした「きりん太田スクエア」は金庫初の ZEB 対応店舗となっています。

【特徴】

環境負荷の軽減。

056-FY2022-04

出資証券のペーパーレス化

【原則5】

会員としての地位や権利には影響が無いことから、会員にとっては紛失・盗難などのリスクを排除、当庫にとっては発行・受渡・回収にかかる事務リスクの排除やコストの削減、さらに紙の使用量削減を通して、環境への配慮を目的としています。

【特徴】

環境負荷の軽減。

056-FY2022-05

地域清掃活動

【原則7】

全役職員を対象とした地域清掃活動を 1 年を通じて継続的に実施しています。また、2018 年度からは各地域の祭り開催後の清掃活動に参加する等、地域とより密接に関わるような清掃活動を行っています。今後も営業エリアや営業店ごとに地域の環境団体などと協力した清掃活動を行なっていきます。

056-FY2022-06

「カッコソウ」の保全活動を目的とした寄付およびロビー展の開催

【原則7】

世界で鳴神山(桐生市・みどり市)だけに生育する大変希少な植物「カッコソウ」の周知と保全活動支援を目的に、200,000 円を桐生市自然観察の森に事務所を置くカッコソウ協議会へ寄付しました。また、桐生・みどり市内店舗においてカッコソウのロビー展示も行い、一般のお客さまへの周知にも努めました。

【特徴】

カッコソウは絶滅危惧 IA 類(環境省第 4 次レッドリスト)に指定されている植物です。

056-FY2022-07

「きりしん SDGs 宣言」の公表および SDGs の推進

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則5】【原則6】【原則7】

当金庫では、地球全体の課題を解決し持続可能な社会の実現を目指す SDGs に賛同し、令和元年 9 月 2 日に「きりしん SDGs 宣言」を行いました。～みんなで地球を救おう～を合言葉に、当金庫が取り組むべき目標を「地域・連携・環境・ガバナンス・挑戦」の 5 つのカテゴリーに分類し、それぞれの目標達成を目指します。また、2007 年に発足した「CSR 推進委員会」の名称を「SDGs・CSR 委員会」に変更し、現在取り組んでいる CSR 活動と SDGs を統合することにより、当金庫の社会的責任を果たすと同時に地球全体の課題解決に取り組みます。

056-FY2022-08

きりしん脱炭素化宣言の公表

【原則1】【原則3】【原則6】【原則7】

令和 4 年 11 月 1 日、当金庫の今後の脱炭素化に向けた計画的な実行と、地域社会・お客さまの脱炭素化に向けた取組み支援を目的に「きりしん脱炭素化宣言」を公表しました。地域の脱炭素化を金庫自身の課題として捉え、持続可能な社会の実現に向けて金庫全体で取り組んでいきます。

■ 中央労働金庫

063-FY2022-01

社会的責任投資の取り組み

【原則1】【原則5】【原則6】【原則7】

有価証券の運用において、企業の社会的責任を判断する場合の基本的な考え方である「E・S・G」のうち、環境面「E」および社会面「S」を重視し、環境保全や社会配慮などへの取り組みに優れた企業の社債やSDGs債などの債券に投資を行っています。

【特徴】

社会面(S)は、ディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)の概念を取り入れ、「人材活用」の分野に着目し、「働く人のための金融機関」としての社会的責任に配慮した資金運用を行っています。

063-FY2022-02

日常業務における職員の意識向上の取り組み

【原則1】【原則4】【原則5】【原則6】【原則7】

地球温暖化対策のための国民運動「COOLCHOICE」に賛同登録し、以下の通りCO₂削減に取り組んでいます。

- ① COOL CHOICE ロゴマークを活用し、節電や階段利用の促進など、役職員の省エネ・省資源の取り組みを促しています。
- ② 店舗や事務所内の適切な室温設定に努めており、また「働き方改革」・「健康経営」の一環として通年ノーネクタイ勤務を実施しています。
- ③ 「働き方改革」および節電対策によるCO₂削減・地球温暖化防止の観点から、全職場一斉に定時退勤する「R-DAY」を毎週設定(2022年4月からは毎週水曜に加え毎月第2金曜を追加)し、2019年4月からは更に部署ごとに月1回以上の独自「R-DAY」を設定することで、管理職を含めて定時退勤ができるよう業務調整・管理を行っています。また、通年で20時まで(1月・8月は強化月間のため19時まで)に業務を終了し、消灯・退館する「ライトダウン運動」を導入しています。

【特徴】

各種日常業務での取り組みを通じて職員の省エネに対する意識を高めています。

063-FY2022-03

グリーン購入の推進・ペーパーレス会議の推進

【原則1】【原則4】【原則5】【原則7】

事業の事務運営に関わる環境負荷を軽減するため、紙のグリーン購入や庫内会議のペーパーレス化に取り組んでいます。

- ① コピー用紙のグリーン購入
庫内で使用するコピー用紙は、全てグリーン購入法適合のリサイクルペーパー(古紙パルプ配合率100%、グリーン購入法総合評価値92、GPN掲載用紙)を使用しています。
- ② FSC 森林認証紙の活用
総会の議案書や全役職員の名刺について、FSC 森林認証紙を使用しています。
2022年度よりディスクロージャー誌は紙媒体での発行を行わず、電子化しています。

③ 庫内会議のペーパーレス化

紙の使用量の削減および会議運営の効率化を図る観点から、タブレット端末を使用して庫内会議を実施しています。

④ 書類・コピー用紙等のリサイクルと再生商品の積極利用

各事務所より排出される機密文書等の書類・コピー用紙の処分について、再資源化が可能な溶解・リサイクルシステムを導入しています。

本店ビルにおいては、再資源化によるトイレトーパー（金庫排出紙の溶解処理を行っている工場で生産される再生商品）を購入し、積極的に利用しています。

【特徴】

日常業務で使用する紙のグリーン購入やペーパーレスの推進に積極的に取り組むことで、環境や社会問題に対する役職員および利用者の意識向上を図っています。

063-FY2022-04

中長期的な環境負荷軽減・省エネ施策等の措置

【原則1】【原則4】【原則6】【原則7】

- ① 営業車として電気自動車を1台導入しているほか、改正省エネ法に基づく施策として、店舗への環境配慮型設備の導入を推進しています。
- ② 使用電力をモニタリングする「デマンド監視装置」を設置（機器設置可能拠点）しています。
- ③ 店舗修繕改修時には必要に応じてガラス遮熱フィルムを取り入れ、店舗新築時には営業室への複層ガラス仕様を導入しています。
- ④ 店舗移転・建替・中長期修繕計画における、高効率の空調設備や照明等を積極的に導入しています。

なお、これらの営業店等の各拠点の節電実績（対前年比）は、庫内イントラネットで公表し、拠点における節電意識の向上に取り組んでいます。

【特徴】

積極的な省エネルギー施策により、電力需要の削減を目指しています。

■ 盛岡信用金庫

067-FY2022-01

「もりしんカーライフプラン・エコ」の取扱い

【原則2】

もりしんカーライフプラン・エコを 2010 年 9 月から取扱開始しました。

電気自動車(燃料電池車を含む)、ハイブリット車、低燃費・低排出ガス車等、自動車重量税、自動車取得税が減免される自家用車の購入に利用できるローン商品です。

【特徴】

従来のマイカーローン(当金庫商品名:カーライフプラン)に比べ低廉な融資保証料の適用により、エコカー普及に寄与するものです。

067-FY2022-02

住宅ローン金利に、自然エネルギー関連設備、環境配慮型住宅設備設置の優遇項目の設定

【原則2】

3 年・5 年・10 年固定期間選択型に関し、再生エネルギー関連設備設置(太陽光発電設備、風力発電設備、地下熱利用設備、ペレットストーブ等)、環境配慮型住宅設備設置(エコキュート、エコジョーズ、エネファーム等)の場合、基準金利からそれぞれ 0.05%金利優遇を行っています。

【特徴】

金利優遇制度による持家意識の助長、自然エネルギー関連設備の普及により低炭素型社会の形成に取り組むものです。

067-FY2022-03

「再生可能エネルギー事業」を通じた地域活性化への支援

【原則3】

当金庫では、再生可能エネルギーを活用した事業を継続的に推進、支援することで、「地産地消方式」の環境ビジネスの確立に取り組んでいます。

地域内での促進を図るため、自治体等への提案を行い地域内で得たエネルギーを地域内で消費し、エネルギー代として域外へ流出していた資金を域内で循環させていくエネルギー版「地産地消方式」を積極的に促進していきます。これらにより、新たなビジネス、雇用を創造すると共に地域の活性化を目指していきます。

なお、紫波中央駅前の再開発(オガールプロジェクト)において、紫波町役場、商業施設、宿泊施設、住宅への木質バイオマスを利用した地域熱供給事業を行うための、エネルギーステーション建設計画を支援しました。

【特徴】

公共施設や企業、家庭などへ最適な自然エネルギー設備を選定、設備の設置・保守・運営を行い、低炭素社会・循環型社会による CO₂削減と地域活性化に貢献するものです。

067-FY2022-04

「もりしん共存同栄の森」

【原則4】

森林整備を行うことにより、水源涵養などの森林の公益的機能の向上を目的として、平成 23 年 11 月、紫波町と「紫波企業の森づくり」活動の協定を締結しました。

間伐により発生した木材は、木質チップとして再資源化することにより、地域資源の有効活用に繋がります。

この活動は、平成 24 年から 15 年間にわたり実施し、紫波町における燃料供給態勢確立へ向けての支援事業の一環となります。

令和 4 年度は、6 月 18 日に第 11 回 紫波企業の森づくり「もりしん共存同栄の森」森林環境保全活動を実施しました。今般の新型コロナウイルス感染防止のため、例年実施していた丸太・小枝等の搬出作業は中止し、当金庫役職員 21 名参加による「紫波町の森林資源循環の取組」について講義受講、「もりしん共存同栄の森」現地視察、地元温泉館「再生可能エネルギー施設」見学、「令和の森」育樹作業とクスギの植樹を行い、環境保全の理解を深めました。

【特徴】

森林の再生に繋がると共に、伐採材をバイオマス利用し、同地温泉施設のチップボイラーの燃料として使用することで、木質材料を利用した供給から消費までのサプライチェーン化が図られるものです。

067-FY2022-05

カーボンオフセット通帳・証書の導入

【原則5】

当金庫の定期性預金証書および普通預金・総合口座通帳等の製造過程において、年間約 410 kg の二酸化炭素(CO₂)排出量を削減しております。

【特徴】

地産地消型のカーボンオフセット通帳を特徴としています。

067-FY2022-06

「森林再生活動」の取り組み

【原則7】

平成 20 年より、荒廃裸地化した鉱山跡地を森林に戻そうと「八幡平松尾鉱山跡地」の森林再生活動に取り組んでいます。

これまでに 285 区画 1,011 本の苗木を植樹し、最初に植樹した苗木は 9 m を超える樹木に成長したのもあり、少しずつ森が形成されています。

【特徴】

職員の環境意識向上により、森林再生による CO₂削減、環境保全が期待できます。

067-FY2022-07

夏季および冬季節電対策の取り組み

【原則7】

政府からの「電力供給対策(要請)」および「信用金庫の環境問題への取組みに関する指針」に基づき、平成 22 年度より電力使用量削減に取り組んだ結果、平成 22 年度比 28.65%使用料削減となりました。

近年、東北地方においても夏場の気温上昇が続いており、電力使用量も増加傾向にあります。今後もクールビズ・ウォームビズの実施、室温設定(夏季 28℃、冬季 20℃)、照明・OA 機器等の節電に取り組んでまいります。

【特徴】

日常業務における実践を通し、環境や社会問題に対する意識向上を図っています。

■ 東海労働金庫

070-FY2022-01

日常業務として行う環境活動

【原則1】【原則4】【原則6】

日常業務の中に環境活動を取り入れることで職員一人ひとりのエコマインドの醸成を図っています。

【特徴】

- ①管理職も含めた定時出勤・退勤を目指した取り組みを、スーパーノー残業デーと名づけて実践しています。職場の点灯・消灯時間を管理することで職員の意識向上と電気使用量の削減を図っています。
- ②各店で排出される情報ゴミの処分について、再資源化が可能な委託業者を通じてトイレトペーパーにし各店で再利用しています。
- ③営業店で保持していた過剰文具を総務人事部で回収し、希望する他の営業店に提供しています。
- ④事務運営に関する環境負荷を軽減するため、紙の使用量を減らす取組みの一環として本部ビル内の会議では電子媒体を使用した会議を導入しています。

070-FY2022-02

金融リテラシーを高める取組

【原則1】【原則3】【原則4】

高校生向け金融教育講座などの金融教育を実施し、金融リテラシーを高める取組を行なっています。

【特徴】

社会人になる前に必要な金融基礎教育を学ぶことを目的として、大学進学や就職などを控えた高校生を対象に消費生活や基本的な金融の知識についての消費生活セミナーを実施しています。

070-FY2022-03

NPO を通じた地域課題解決の取組

【原則1】【原則3】

地域の社会的課題解決に取組む NPO を支援し、働く人の生活改善、地域の活性化などに貢献しています。

【特徴】

①NPO 育成助成制度

地域や社会の課題解決に取組む NPO を支援するために 2004 年に創設。助成金交付後は中間支援団体による NPO 事業基盤確立に向けた伴走支援を行っています。(2021 年度助成団体数 17 団体)

②社会貢献商品の取組

一部商品の利用状況に応じて、NPO 中間支援団体へ寄付を行っています。ろうきんの商品を利用することで、地域の社会的課題を解決する NPO 団体の支援につなげています。

③NPO 寄付システム

東海ろうきんの普通預金口座から指定の寄付金額を定期的に NPO 団体等へ取次ぐ金融サービスを提供しています。2022 年 3 月末時点の登録団体数は 74 団体となっており、お客さまからのあたたかい寄付金をご指定の NPO 団体等へ寄付されています。

④NPO 等非営利法人専用 ソーシャルビジネスサポートローン

NPO の目的にかかわる事業の運転資金、設備資金や地方公共 団体指定管理制度の委託金等の支給までのつなぎ資金としてご利用いただいております。資金面から NPO の活動を支援しています。

■ 碧海信用金庫

075-FY2022-01

- ・ クールビズ、ウォームビズの実施
- ・ 省エネ設備(省エネタイプの空調機、照明器具への更新等)の導入
- ・ エレベーター利用の制限(階段利用の促進)
- ・ 空調機の温度管理
- ・ 退庫予定時刻 30 分前の空調停止
- ・ 本部、事務センター内のデマンド管理による空調管理
- ・ 会議室等、照明のこまめな ON、OFF

【原則5】

- ・ クールビズ(5～10 月)、ウォームビズ(11～3 月)の実施
- ・ 新築店舗への太陽光発電設備の導入
- ・ 照明設備の LED 化の促進
- ・ エレベーター利用の制限(2 段上がり、3 段さがりはエレベーターを使用しないことの促進)
- ・ 空調機の温度管理(夏場は 28 度、冬場は 20 度を目安に)
- ・ 本部建物のデマンド制限(電力ピーク値を前年比よりカットする運用)による空調管理

075-FY2022-02

エレベーターの一部休止

【原則5】

3基ある本部エレベーターを令和4年9月末まで1基を休止。

075-FY2022-03

本店建物ネオンサインの消灯

【原則5】

本店建物壁面 3 方向のネオンサインを令和 4 年 9 月末まで消灯。

■ 豊橋信用金庫

076-FY2022-01

環境保全に対応した商品の取扱い

【原則2】

- ・「オール電化住宅ローン」「エコガス住宅ローン」の取扱い
オール電化住宅等の省エネ住宅の新築や購入、増改築資金に対して 3 年間、当金庫所定の金利から 0.2%の引下げをしています。
- ・「リフォームプラン・エコ」の取扱い
エコ関連設備の購入・設置資金およびそれに伴うリフォーム資金などに対して、2.80%（保証料はご融資利率に含まれます）で取扱いをしています。
- ・「エコ応援定期預金」の取扱い
省電力、節電に取り組むお客様を応援するため、① 前年の同月と比べて、電気使用量が削減された世帯の方もしくは② 太陽光発電システム、エコジョーズ、エコフィール等のエコ関連設備投資を現金 10 万円以上で行った世帯の方を対象として、スーパー定期 1 年ものの店頭表示金利に 0.05%の上乗せ（1 人あたり 100 万円以内）をしています。
- ・「エコ応援ローン」の取扱い
太陽光発電システム、エコジョーズ、エコフィール等のエコ関連設備資金（借換にはご利用できません）に対して、当初 3 年間 1.20%・4 年目以降は 1.50%（保証料はご融資利率に含む）で取扱いをしています。

076-FY2022-02

エコキャップ推進運動

【原則3】【原則6】

2011 年 5 月から、環境改善への取組みの一環として、ペットボトルのキャップを回収し、再資源化を促進する「エコキャップ推進運動」を開始しました。

回収したキャップを再資源化することで二酸化炭素の発生が抑制でき、また、再資源化により得た収益金は、発展途上国の子どもたちへのポリオワクチン提供に役立てています。

回収ボックスは、全営業店、本部、お客様相談所など計 36 ヶ所に設置しており、エコキャップの回収累計は、2022 年 10 月末現在で 2,172 万個を超えました。

076-FY2022-03

その他の取組み

【原則3】【原則4】【原則6】

- ・530(ごみゼロ)運動の実施
1975 年より春と秋の年 2 回、全役職員が地域の清掃奉仕活動に参加し、環境美化に取り組んでいます。
- ・「朝倉川育水フォーラム活動」への参加
牛川支店をはじめ近隣 4 店舗の職員及びとよしんボランティア部の職員が、河川の再生と環境改善に取り組む活動へ参加しています。
- ・各店舗にて周辺地域の清掃活動を実施
各店舗が地域貢献活動に取組む一環として、支店近くの公園などの清掃や各地域のボランティア活動に参加するなど、地域の環境保全に取り組んでいます。

・エコ検定の受験を奨励

環境問題に対する意識向上のため、東京商工会議所が主催する「エコ検定」の受験を奨励し、2022 年 10 月末現在で 511 名の役職員が合格しています。

・紙製粗品袋の導入

SDGs の観点から環境に配慮し、ビニール製から紙製の粗品袋へ変更しています。

・バイオマスプラスチック製カルトンの導入

SDGs の観点から環境に配慮し、植物の澱粉などを主原料とした植物由来の環境に優しい「バイオマスプラスチック」製のカルトンを使用しています。

076-FY2022-04

環境保全への取組み

【原則6】

環境保全のため地球温暖化対策として「エコアクション 15%」の活動を展開しています。電気使用量について、令和 12 年度に向けた新たな業界数値目標を基に、基準年度(平成 21 年度)比 12.80%削減を目標に数値目標を設定し活動しています。また、CO₂ 排出削減のため「クールビズ」および「ウォームビズ」を実施しています。車両燃料(ガソリン)、ガス、コピー使用量については、2013 年度から 8 年間で基準年度比 15%削減を目標に数値目標を設定し、役職員が一丸となって環境改善に取り組んでいます。

076-FY2022-05

環境配慮型店舗の開設

【原則6】

2010 年 6 月に新城支店、2011 年 1 月に田原支店、2012 年 1 月に問屋町支店、2014 年 6 月に豊川支店、2018 年 12 月に大岩支店、2022 年 2 月に牛川支店を環境配慮型店舗として新築オープンしました。

環境面への配慮として、太陽光パネル付 LED 外灯の設置のほか、断熱性能が高い複層ガラスや省エネ型照明機器(初期照明補正機能付蛍光灯)、雨水利用システム、駐車場には夏場の温度上昇を低減させる浸透性・保水性舗装などを採用しています。

076-FY2022-06

電気自動車の導入

【原則6】

本店営業部の営業用車両に「電気自動車(日産:リーフ)」を導入しています。導入した電気自動車は、ガソリンを使用せず電気だけで走行可能(8 時間の充電により約 200 キロ走行)なため、二酸化炭素を排出しない環境にやさしい自動車となっています。また、本部の営業用車両には、ガソリンエンジンで発電し、蓄電された電気で行く環境にやさしい低燃費モデルの自動車も導入しています。

076-FY2022-07

SDGs 宣言の表明

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則5】【原則6】【原則7】

【特徴】

日々の信用金庫活動を SDGs に結びつけ、「経済」「社会」「環境」の分野に関する取組みを通じ、当金庫の基本方針のもと、地域金融機関として地域社会の課題解決を実践し、持続可能な社会の実現に向けた活動することを示すものとして、2020 年 4 月に「豊橋信用金庫 SDGs 宣言」を表明しました。「経済」では“地域産業の持

続的な成長”、「社会」では“持続可能な地域づくりへの貢献”、「環境」では“環境保全のための地球温暖化への対応”として、3つの分野に関連付けて取組んでいます。

2020年7月からは、地方自治体が創設した「SDGs パートナー制度」に登録された企業を対象とする「SDGs ローン」の取扱いを開始しています。

076-FY2022-08

フードドライブの実施

【原則4】【原則6】

【特徴】

フードドライブは、地域の皆様から家庭にある未利用の食品などを持ち寄っていただき、フードバンク団体を通じて児童養護施設、母子生活支援施設などの福祉施設に寄付をする活動です。この活動に賛同すべく、豊橋市市内の店舗に回収箱を設置し、地域の皆様から持ち寄っていただいた、食料品(602点)および当金庫の災害用備蓄品(飲料水(2ℓ)540本、アルファ米 1,200袋)を特定非営利法人東三河フードバンクへ寄付しました。

■ 近畿労働金庫

089-FY2022-01

環境委員会の設置、環境改善活動の推進

【原則 1】【原則 3】【原則 5】【原則 7】

2002 年 6 月に「近畿ろうきん環境宣言」を制定し、環境マネジメントマニュアルに基づく取組みを継続しています。全部署において環境にかかる年間計画の策定や進捗状況の点検の他、環境に関する法律や条例の調査、環境に関する苦情対応、職員への環境教育や啓発など、環境マネジメント活動に取り組んでいます。

089-FY2022-02

ペットボトル・キャップのリサイクルへの協力

【原則3】

2006 年 9 月より、淡海フィランソロピーネット(滋賀県社会福祉協議会、滋賀県労働者福祉協議会、滋賀県内企業などで構成された社会貢献推進組織)が進める「ペットボトルのキャップリサイクル事業」のモデル会員として、協力しています。当金庫では、滋賀県内の職場はもとより、すべての職場での取組みとして、広く職員の参加を呼びかけています。

【特徴】

ペットボトル・キャップ回収の試みは、キャップを集めてチップ化し、プラスチック商品に再生することで、①地球環境保護活動の推進(省資源)②障がいのある方の就労支援、を達成しようというものです。

089-FY2022-03

「祇園祭ごみゼロ大作戦」、「天神祭ごみゼロ大作戦」への協賛とボランティアスタッフとしての職員参加

【原則 1】【原則 3】【原則 4】【原則 5】【原則 7】

当金庫は、環境宣言で謳う環境マネジメント活動の推進の一つでもある「地域の環境改善活動への参加」として、「祇園祭ごみゼロ大作戦」、「天神祭ごみゼロ大作戦」に協賛し、当実行委員会が発行する「ボランティアスタッフ募集」チラシを各営業店に設置するなどの広報協力、ならびに当金庫職員のボランティアスタッフへの参加を行っています。

【特徴】

「ごみゼロ大作戦」では『みんなで楽しく、世界に誇れる祭りをつくり上げよう！』と呼びかけ、くり返し何度でも洗って使用できる「リユース食器」を露店に導入することで、ごみ減量と散乱ごみの防止をめざしています。大小の「エコステーション」が会場に設置され、リユース食器と資源(ごみ)の分別回収の拠点となっています。ボランティアスタッフは、ステーションから祭り客に対し分別廃棄の呼びかけ・誘導、および路上ごみの回収を行います。また、祭りの準備の時間帯には、各露店に「リユース食器」の持ち込みなども行っています。

089-FY2022-04

社会貢献プロジェクト・笑顔プラス

【原則 1】【原則 2】【原則 3】【原則 4】【原則 5】【原則 7】

社会貢献預金(笑顔プラス)は、ご預金を通して、近畿 2 府 4 県の地区別団体(10 団体)と近畿共通団体(2 団体)それぞれの各活動分野の市民活動を応援するものです。寄付先団体との連携による「社会貢献プロジェクト・笑顔プラス」では、セミナー・シンポジウム、視察・体験ツアー、各種イベントなどを企画し、寄付行為のみにとどまらず、預金者・ろうきん利用者・労働組合のみなさんとともに、社会貢献・社会活動への参加を呼びかけ、よりよい社会づくりをめざしています。

【特徴】

上記の取組みを推進するため、毎年度の「環境改善目標のガイドライン」において『社会貢献預金(笑顔プラス)の推進』を重点目標の一つにあげるとともに、各営業店の目標を定めています。

■ 二本松信用金庫

093-FY2022-01

環境配慮型金融商品の取扱

【原則2】【原則7】

環境問題に積極的に取り組む企業を投資対象とした「損保ジャパングリーンオープン(ぶなの森)」など環境に関連する投資信託を取り扱っています。

平成 24 年 11 月より、太陽光発電システムをはじめとする「再生可能エネルギー事業支援融資」の取扱を、また令和 3 年 2 月より、企業が SDGs の理念である「持続可能な社会の形成に」を実現するための融資商品「まつしん SDGs ローン」の取扱を開始し、地域企業などの環境配慮への意識向上に資することを目指しております。

また、持続可能な社会の形成の達成に向けて、「しんきん SDGs 私募債(寄附型)「ちいきのミライ」、しんきん SDGs 私募債(福利厚生型)「ベネフィットサポート」の取り扱いを開始しております。

093-FY2022-02

地球温暖化防止に取り組む「ふくしまゼロカーボン宣言」事業への参加

【原則1】【原則4】【原則6】

当金庫では、地球温暖化防止に向けて福島県内事業所が自主的目標を定めて取り組む「ふくしまゼロカーボン宣言」事業に参加しています。平成 19 年度よりクールビズ、ウォームビズを実施し、二酸化炭素排出量の削減等地球温暖化対策に努めております。

093-FY2022-03

「こどもの未来古本募金」運動の展開

【原則4】【原則5】

こどもの貧困解消に取り組む官公民の連携・協働プロジェクト「子供の未来応援国民運動」に賛同し、・古本回収ボックスを店舗に設置、お客さまや役職員から回収した古本を引き取り業者が査定し、買取額が「子供の未来応援基金」通して子供たちを支援する活動をしている NPO 等の団体に寄付される取り組みを行っております。

■ 大阪厚生信用金庫

097-FY2022-01

クールビズ、ウォームビズ、緑化活動

【原則1】【原則6】

大阪厚生信用金庫では、「Fun to Share」に参加するとともに、地球温暖化防止対策の一環として、「クールビズ」「ウォームビズ」を実施しています。また、ヒートアイランド現象の対策や節電を目的として、本部と営業店で緑化活動に取り組んでいます。

(<https://www.co-sei.co.jp/topics/coseieccoolbiz.html>)

(<https://www.co-sei.co.jp/topics/coseiecowarmbiz.html>)

(<https://blog.goo.ne.jp/sheshenina/e/a843be79cc8aed652205dc20304af66c>)

097-FY2022-02

エコ定期「わかば」

【原則2】

エコ定期「わかば」の期末の預入残高に応じて、大阪府みどりの基金へ寄付を行い、大阪府の緑化の推進および良好な自然環境の保全に協力しています。

097-FY2022-03

エコ blog

【原則7】

大阪厚生信用金庫は、環境関連の活動として行っている様々な取組みを、「エコ blog」として紹介しています。(<https://blog.goo.ne.jp/sheshenina>)

097-FY2022-04

小学生対象のミニバスケットボール大会の開催支援

【原則4】

地域の子供たちの健全な育成、地域スポーツの活性化を願い、平成 25 年より地域のミニバスケット連盟主催の大会に特別協賛しています。「CO-SEI CUP」と名称し、この大会の出場を目指し、大阪市内の約 150 チーム、約 3,000 人の小学生が予選を戦います。この大会は地元のプロバスケットボールチームの後援も得て、地域を盛り上げる取り組みとなっています。当日の運営補助について、当金庫職員も協力し、地域貢献活動を行っています。

097-FY2022-05

CO-SEI チャリティコンサートの実施

【原則3】【原則4】【原則5】

平成 21 年から、当庫では「CO-SEI チャリティコンサート」を開催しています。こちらは、大阪の緑化の推進や良好な自然環境の保全を通じて、地域社会に貢献することを目的としたものです。当庫の役職員だけでなく、当庫のお取引先や地域の方々にも多数ご来場いただいております。チケット代金と当日の募金は「大阪府みどりの基金」へ全額寄付しています。2022 年度は創業 100 周年記念チャリティコンサートを開催し、約 1,500 名様にご来場いただきました。

097-FY2022-06

ソーラーパネルの設置

【原則6】

当庫では、店舗の屋上にソーラーパネルを設置し、CO₂削減を推進しています。既存店舗だけでなく、新店舗にも積極的にソーラーパネルを導入しており、環境負荷の軽減に努めています。

097-FY2022-07

夏期早帰り運動

【原則6】

節電の取組みとして、当金庫では7～9月の業務終了時間を30分繰り上げています。始業時間は変更していません。この取組み実施以前から夏期は定時退庫を励行していましたが、より節電を意識するために、現在では業務終了時間を繰り上げています。

097-FY2022-08

SDGs宣言

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則5】【原則6】【原則7】

2019年4月、当金庫はSDGsに取り組むことを宣言しました。当金庫では「地域金融の使命を自覚し、地域社会の繁栄に貢献する」ことを経営理念の一つとして掲げており、これは、国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」と目的を同じくするものだと考えています。地域の発展・成長をより一層進めることにより、地域社会の一員として持続可能な社会の実現に努めてまいります。

097-FY2022-09

感染症対策の実施

【原則1】【原則4】

当金庫は、お客さまにご使用いただくための消毒液の店舗備えつけや、窓口でのアクリル板設置など、新型コロナウイルス等の感染症対策に努めています。また、職員からお客さまへの感染を防ぐだけでなく、職員の感染を防ぐため、金庫内の通達等を通じて全職員に感染症対策の意識向上を繰り返し呼びかけています。

097-FY2022-10

小学生ソフトボール大会、小学生ドッジボール大会への協賛

【原則4】

当金庫は、2020年度から新たに「春季全日本小学生男女ソフトボール大会」へ協賛しています。この大会は全国大会出場につながる大きな大会です。新型コロナウイルス感染拡大の影響でスポーツ大会は中止されることが多くなっていますが、こうした状況下でも、十分に距離をとることのできる屋外スポーツを応援することで地域の子供たちの健全な育成、地域スポーツの活性化に貢献できると考え、同大会へ協賛することとしました。

また、当金庫は2019年度から「春の全国小学生ドッジボール選手権大阪府大会」に協賛しています。この大会は全国大会につながる大会であるとともに、多くの6年生にとっては小学生として臨む最後の大きな大会でもあります。この大会でも当金庫職員が協力し、大会を盛り上げるお手伝いをしています。

097-FY2022-11

「寄りそいパートナー」を全店に配置

【原則4】【原則5】

高齢化が進む中、金融機関においては、相続や財産管理といった金融サービスの紹介・提案に加え、認知機能が低下したお客さまに対して地方自治体や社会福祉協議会と連携して対応する事例が増加しています。そこ

で、トラブル防止や判断能力の低下しているお客さまの財産保護、円滑な相続促進による社会貢献を目指すため、当金庫は「寄りそいパートナー」として高齢者相談職員を全店に配置しました。

「寄りそいパートナー」は、相続や財産管理等の相談業務に対応できる知識の取得と他の職員への教育、事例情報の金庫内共有、地方自治体や社会福祉協議会との連絡相談窓口等、各店で日々多様な活動を行っています。

■ 長野県労働金庫

098-FY2022-01

環境に配慮した融資商品の取扱い

【原則2】

環境の保護・保全に取り組む方への支援を目的として有担保住宅ローンについて当金庫所定の金利より一定の金利引下げを実施しています。

- ・金庫が指定するエコ住宅に該当する場合
- ・長野県が定める「長野県 CO₂ 固定量認定制度」の要件に該当する住宅の場合

098-FY2022-02

被災者支援の取組み

【原則3】

災害で被災された方またはその親族の方を対象として、低金利でご利用いただける「災害救援ローン」の取扱いをしています。また、住宅ローンを中心とする返済計画の見直しに関する相談をお受けしています。

098-FY2022-03

環境に優しい店舗づくり

【原則6】

店舗新築時に太陽光パネルの設置や地中熱の利用を行っている他、全店舗において LED 照明を使用しています。

098-FY2022-04

長野ろうきん「こども基金」を通じた子育て支援の取組み

【原則 1】

当金庫では、子どもの将来が生まれ育った環境によって左右されることのないよう、地域の子どもに関する課題解決に取り組んでいる 中間支援組織 NPO 等の非営利団体)と連携し、長野ろうきん「こども基金」を通じて、長野県内の子育て世帯を応援する取組みを支援しています。

具体的には、お客様が当金庫のローン商品をご利用いただいた件数に応じた金額を当金庫が拠出し、地域の支援団体に助成をしています。

098-FY2022-05

新型コロナウイルス感染拡大に対する対応

【原則3】

① 新型コロナウイルス感染に対応する勤労者支援(融資取引他)

新型コロナウイルス感染拡大による経済的影響に伴う収入の減少や、やむ無く離職された方を対象とした、無担保かつ低金利の「新型コロナウイルス緊急生活応援融資」の利用促進に取組みました。

あわせて、現在 当金庫へ ご返済中 の融資に関する各種相談の受付、及び、返済等の見直しについても対応いたしました。

②フードバンクの取組み

コロナ禍において、児童や生徒の自宅における食事機会が増加するなか、その食事への支援を必要とする家庭に対する食糧確保の取組みを行う NPO 団体(フードバンク信州)と連携した食糧支援(フードドライブ)の取組みを地域の労働団体等と共同で行いました。

098-FY2022-06

ピンクリボン運動への支援

【原則 1】

当金庫では、長野県で暮らす女性がいつまでも健康でいられるように、当金庫対象商品の利用状況に応じて、公益財団法人日本対がん協会「ほほえみ基金」に寄付しています。

098-FY2022-07

NPO ボランティア団体への支援活動

【原則 1】

当金庫では、「長野県みらい基金」を通じ、地域で様々な活動に取り組まれている NPO やボランティア団体等の支援を行っています。

■ 新潟信用金庫

102-FY2022-01

マイカーローンでの、環境対策自動車(低公害車)お申し込みで、金利引下げを実施

【原則 6】

新潟信用金庫では、環境対策自動車(低公害車)でのマイカーローンのお申し込みで、金利年 0.20%の引下げを実施しています。

102-FY2022-02

クールビズ・ウォームビズの実施、およびディスクロージャー誌・通帳・証書等への「植物性大豆油インク」の採用

【原則 4】【原則 6】

新潟信用金庫では、クールビズ、ウォームビズを実施しています。また、ディスクロージャー誌・通帳・証書等には、順次、環境に配慮した「植物性大豆油インク」を採用しています。また、一部通帳には、紙 100%で出来た通帳表紙を使用することで、製造過程において発生する切れ端が新たな資源に生まれ変わる「エコクロス通帳」を採用しています。

102-FY2022-03

粗品用手提げ袋の原料としてバイオプラスチックを利用

【原則 6】

新潟信用金庫がお客様に提供する粗品用手提げ袋の原料をプラスチックからバイオプラスチックへ順次変更しています。

■ 高崎信用金庫

103-FY2022-01

たかさきアダプトまち美化活動の取組

【原則3】

平成 26 年 7 月の当金庫創立 100 周年に向けた活動として、地域の環境保全に一層取り組もうと、平成 23 年 5 月より、地元の河川である烏川の清掃活動に継続的に取り組むこととしました。

活動開始にあたり、当金庫では、高崎市が実施する「たかさきアダプトまち美化活動事業」ならびに国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所が実施する「アダプトプログラム烏川・神流川」において協定を締結し、地域や関係機関と連携した清掃活動を実施することとしました。

活動場所は、高崎市内を流れる烏川の和田橋から聖石橋球場までの河川敷および土手の約 1 キロの範囲です。

実施は年間 3 回で、空き缶やたばこの吸い殻などのゴミ拾いが主な活動内容です。令和 2 年以降については新型コロナウイルス感染症拡大のため活動は中止しております。

【特徴】

本活動の特徴は、「アダプト」という仕組みを活用しているところです。「アダプト」とは、「養子縁組」という意味で、地域住民が「里親」となり、河川・道路・公園などの公共的スペースの一定区間を「養子」に見立て愛情と責任を持って美化(清掃)活動を行い、これを行政が支援する制度です。

また、地域の皆さまに本活動を知っていただき、地域の環境美化に少しでも繋がればとの思いから、活動時にはお揃いのスタッフジャンパーまたはポロシャツを着用し、活動を PR しています。

103-FY2022-02

マイカーローンの次世代自動車金利優遇

【原則3】

マイカーローン(たかしんカーライフプラン、たかしん自動車ローン「モア」)をご利用の際、次世代自動車(ハイブリット車、プラグインハイブリット車、電気自動車、燃料電池車、クリーンディーゼル車)を購入される方に対して金利を 0.3%(次世代自動車新車以外または燃費基準達成車)及び 0.5%(次世代自動車新車限定)引き下げています。

【特徴】

利用者にわかりやすくするため、対象となる次世代自動車をハイブリット車、プラグインハイブリット車、電気自動車、燃料電池車、クリーンディーゼル車としています。

103-FY2022-03

住宅の省エネ改修のための金利優遇ローン

【原則3】

住宅の省エネ改修に対して金利を優遇したリフォームローン(たかしん目的ローン「エコリフォームプラン」)をご用意しています。

【特徴】

たかしん目的ローン「エコリフォームプラン」(変動金利)については優遇金利を適用した場合、他のたかしん目的ローンより金利が低くなるよう設定しています。

103-FY2022-04

環境保全活動に貢献するカードローン「たかしん エコきやつする」

【原則3】

新規契約 1 件につき 100 円を環境団体に寄付(当金庫負担)することで環境保全に貢献することをコンセプトとした商品です。

【特徴】

平成 19 年の発売以来、年度単位で新規契約数に応じた金額を(社)群馬県緑化推進委員会の「緑の募金」に寄付しております。

令和 3 年度分は 1,100 円を寄付し、寄付した総額は 546,800 円になりました。

103-FY2022-05

平成24年8月より群馬県吾妻郡にある株式会社吾妻バイオパワーが運営する「吾妻木質バイオマス発電所」で発電されたグリーン電力を利用して作成した定期積金通帳と現金封筒を導入し、平成26年3月に総合口座通帳、平成29年10月は定期預金通帳についても導入しました。

【原則5】

グリーン電力とは、自然エネルギーや再生可能エネルギーにより発電された電力のことです。木質バイオマス発電もそのひとつで、建設廃木材や公園・街路樹などの剪定作業で発生する剪定枝などをチップ状に砕いた木質チップを燃料として発電しています。樹木は成長過程で光合成により大気から CO₂ を吸収するため、木質チップを燃やした時に CO₂ を排出しても、全体として CO₂ 量は増加しないことになります。このように CO₂ を吸収する量と排出する量がプラスマイナス・ゼロになることをカーボンニュートラルといい、地球温暖化の防止につながります。

【特徴】

グリーン電力の利用とは、当金庫が発注した通帳および封筒の製造工程や印刷工程で使用する電力量を受注先が計量し、当金庫がその使用電力量に相当するグリーン電力の環境価値を買取することで、結果として環境にやさしい電力を使用して通帳や封筒を製造・印刷したとみなされる仕組みです。

103-FY2022-06

信用金庫業界の環境自主行動計画の推進

【原則 4】

平成 20 年度から 24 年度までの 5 年間で、電力、ガソリン、紙の使用量を平成 18 年度比 6%以上減とすることを目標に削減に取り組みました。新たに平成 25 年度から令和 2 年度を「第一計画期間」として、電力、紙の使用量を平成 21 年度比 10.5%以上減とすること、令和 3 年度から令和 12 年度を「第二計画期間」として、同年度比 19%以上減とすることを目標に取り組みます。

【特徴】

全店で CO₂ 排出量削減の取り組み、「第一計画期間」の 8 カ年計画の実効性を確保しています。

LED 照明の導入

本店営業部をはじめ、28ヶ店舗の営業室に LED 照明を導入しており、営業室以外についても順次 LED 照明への切り替えを行っています。

電気自動車の導入

二酸化炭素を排出しない電気自動車を営業活動用として 6 台配備しております。

LED 照明や電気自動車の導入により、省電力・省エネルギーを推進しています。

103-FY2022-07

「高崎信用金庫 SDGs 宣言」の制定

【原則3】【原則 6】【原則 4】

当金庫は、地域金融機関として当金庫の取組みについて、SDGs との強い関係性を確認し、今後、さらなる取組みの強化により、SDGs の達成に向けて貢献することを宣言した「高崎信用金庫 SDGs 宣言」を令和元年 8 月に制定し、SDGs の達成に向け取り組んでいます。

【特徴】

当金庫の取組みと SDGs との係わりについて、下記の 4 つの重点項目に区分し、それぞれの取組みを強化して、SDGs の達成に向け貢献してまいります。

① 地域経済の活性化

地域における金融サービスの提供と、地元中小企業の皆さまへの経営支援を通じて、地域経済の活性化に貢献してまいります。



② 地域社会の繁栄

広く地域社会のお役に立つ活動に取り組み、地域の皆さまへの豊かな暮らしのお手伝いをしてまいります。



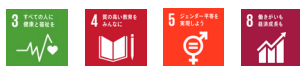
③ 環境保全

地球にやさしく社会と融和した金融機関を目指し、地球の豊かな環境保全に取り組んでまいります。



④ 人材育成

すべての職員が輝くための組織づくりに向けて、地球や地域のお客さまの課題解決を担う人材の育成や、働き方改革等に取り組んでまいります。



103-FY2022-08

「たかしんSDGsソーシャルビジネス資金」取り扱い

【原則3】

社会的課題の解決に取り組む当金庫取引先事業者(対象先①NPO法人 ②ア:保育サービス事業、介護サービス事業等、イ:社会的課題の解決を目的とする事業)の支援を通じて、当金庫が SDGsの達成に向けて貢献することを目的とした融資商品。

【特徴】

日本政策金融公庫との協調融資

103-FY2022-09

住宅ローン環境配慮型住宅(ZEH(ゼッチ)住宅)新築・購入者を対象とした金利優遇

【原則3】

住宅の省エネ化、脱炭素化への取り組みの一環として、環境配慮型住宅（ZEH〈ゼッチ〉住宅）を新築・購入したお客様について、住宅ローン当初変動金利選択時の全期間優遇金利を 2.35%、当初特別優遇 10 年固定特別優遇金利を 0.1%引き下げています。

103-FY2022-10

「たかしんビジネス応援団『カーボンゼロ支援資金』」取り扱い

【原則3】

カーボンニュートラルの実現へ向けた取り組みの一環として、CO₂ 削減に向けた設備の導入や脱炭素化に資する商品・サービス等の開発など、脱炭素化に取り組む事業者を支援することを目的とした融資商品です。

【特徴】

たかしんビジネス応援団実行にかかる所定の手数料を無料とし、その手数料相当額を事業者から環境保全団体へ直接寄付をしていただく商品となっています。

資金用途をCO₂ 削減や脱炭素に向けた取り組みに係る費用に限定することで、融資条件を従来の「たかしんビジネス応援団」より優遇しています。

■ 兵庫信用金庫

110-FY2022-01

クールビズ・ウォームビズの実施

【原則1】【原則 6】

本部・事務センター・全営業店において、クールビズ・ウォームビズを実施。

【特徴】

クールビズ・ウォームビズの実施にて、省エネルギー推進、職員の意識向上に努めています。

110-FY2022-02

カーボンオフセット通帳の使用

【原則1】【原則 6】

環境に配慮したカーボンオフセット通帳を使用し、CO₂排出の削減に寄与しています。

【特徴】

カーボンオフセット通帳の採用により、CO₂削減に取り組んでいます。

110-FY2022-03

LED照明の設置

【原則1】【原則 6】

本部ビル 1 階・神戸中央支店の照明を LED 照明に切り替えしました

【特徴】

省エネルギー化に積極的に取り組んでいます。

110-FY2022-04

社会貢献活動

【原則4】【原則 5】

全店に「緑の募金箱」を設置し、年 2 回、兵庫県緑化推進協会に募金を振込しています。

【特徴】

地域社会への貢献活動として継続して実施しています。

■ 城南信用金庫

112-FY2022-01

LED照明を導入

【原則1】

営業店に LED 照明を導入(累計 85 店舗に導入)。

【特徴】

LED 照明の導入により、省電力、省エネルギーを推進します。

112-FY2022-02

営業店の屋上にソーラーパネルを設置して発電を実施

【原則1】

本店、事務センター、羽田支店、奥沢支店、中野支店、狛江支店、高円寺支店、溝ノ口支店、生田支店、綱島支店、鶴見支店、荏田支店の屋上にソーラーパネルを設置し発電を実施。

【特徴】

ソーラーパネルの発電により、省電力、省エネルギーを推進します。

112-FY2022-03

「節電プレミアムローン」の取扱い

【原則2】

ソーラーパネルの設置費用、蓄電池の設備費用、自家用発電機の設置費用等、省電力に関連する設備投資のためのローンに対して、当初 1 年間は 0.0% (無利息)、2 年目以降は 1.0% (固定金利) の利率を適用。

対象者:個人

金額:50 万円以上 300 万円以内

期間:3 年以上 8 年以内

【特徴】

地域のお客様に、省電力・省エネルギーに向けた取組みを奨励。

112-FY2022-04

「節電プレミアム預金」の取扱い

【原則2】

ソーラーパネルの設置、自家用発電機の購入、蓄電池の購入、LED 照明への切り替え等、省電力に関連する 10 万円以上の設備投資を行ったお客様に対し、定期預金金利 年 1.0%を適用。

対象者:個人

預入金額:1 世帯につき 100 万円まで

期間:1 年

【特徴】

地域のお客様に、省電力・省エネルギーに向けた取組みを奨励。

112-FY2022-05

節電・新エネルギー推進ビジネスローン「エナジーシフト」の取扱い

【原則3】

ソーラーパネルの設置費用、蓄電池の設備費用、自家用発電機の設置費用等、省電力に関連する設備投資のための中小企業向けローンを取扱開始。「ISO 14001」または「エコアクション 21」の認証を取得している場合 0.2%金利優遇。

対象者：法人または個人事業者
期間：15 年以内

【特徴】

地域のお客様に、省電力・省エネルギーに向けた取組みを奨励。

112-FY2022-06

最新環境技術を駆使した省エネ店舗の設置

【原則1】

自然エネルギーの活用によりエネルギー使用量の削減をめざした環境に配慮した負荷の少ない設計による新店舗を設置している（羽田支店、奥沢支店、中野支店、高円寺支店、溝ノ口支店、生田支店、綱島支店、鶴見支店、荏田支店）。

【特徴】

環境負荷の少ない建築技術により省電力、省エネルギーを推進する。

112-FY2022-07

「RE100」に加盟

【原則1】【原則5】

事業活動で使用する電力を 100%再生可能エネルギーで調達することを目標に掲げる企業が参加する国際イニシアティブ「RE100」に国内金融機関で初めて加盟し、バイオマス発電による電力への切り替え、J クレジットの購入による CO₂ のオフセットにより、2019 年 7 月に国内企業で初めてその目標を達成した。

【特徴】

使用電力を 100%再生可能エネルギーにするとともに金融業界の再生可能エネルギーに対する意識向上を図る。

■ 愛媛信用金庫

114-FY2022-01

地域活性化に向けた活動

【原則3】

地域の皆さまへの様々な金融商品・金融サービスの提供を通じて、地域経済の持続的発展に貢献するとともに、地域社会に密着した地域活性化に資するための活動に取り組んでいます。

- ・ 創業・新規事業支援
創業・起業の相談から創業した後まで、当金庫のネットワークや様々な制度を活用し、徹底的にサポートします。
- ・ 事業承継支援
外部機関とも連携し、地元企業の存続・発展につなげるための支援体制を構築しています。
- ・ 地域のさまざまな主体と連携した取組み
地域活性化と産業振興を目的として、地方公共団体と包括的連携協定を締結し、信用金庫業界のネットワークを活用して地元企業と全国の企業とのさまざまなマッチングに取り組んでいます。
- ・ 地域イベント・ボランティア活動への参加
地域金融機関として、地域の祭りや様々なイベントに積極的に参加しています。

114-FY2022-02

自治体等との連携

【原則5】

- ・ ESG投融資による企業の環境に配慮した経営を後押しすることを目的として、松山市、伊予銀行および愛媛銀行と「市内企業の脱炭素投資促進事業に関する連携協定」を締結しています。
- ・ 「2050年脱炭素社会の実現」の目標達成に向け、企業・団体等がそれぞれの立場で取り組む地球温暖化対策を表明する愛媛県「2050年脱炭素社会・アクション宣言」に登録しています。

114-FY2022-03

環境にやさしい店舗づくり

【原則6】

店舗建物を新築する際には、環境に配慮し、太陽光発電システム設備や LED 照明、温度保持効果の高い複層ガラスなどを導入しています。事務機器等についても、環境配慮型の機器へ順次入替を行っています。そのほか、クールビズやウォームビズの実施、Web システムの活用によるペーパーレスの推進や、役職員に対する省エネ意識の啓蒙を行っています。

■ 鶴岡信用金庫

120-FY2022-01

環境に優しい金融商品の取扱い

【原則2】

- ・「カーライフプラン・エコ」のエコカーに係る金利優遇を行っています。
- ・ ふれあっとリフォームローンの地球温暖化対策リフォーム工事資金に対する金利優遇を行っています。

【特徴】

企業の社会的責任に対して、本業として環境問題の解決に貢献することを目的に取組みしています。

120-FY2022-02

地域における環境保全活動の実施

【原則4】

- ・ 2005 年から羽黒山(出羽三山)参道、境内の清掃ボランティア活動を行っています。
- ・ 山形県ふるさとの川愛護活動事業へ参画し、内川の清掃活動を行っています。
- ・ 2010 年から山形県、鶴岡市、山形銀行と協同で「やまがた絆の森づくり活動」を実施し、森林の保全活動に取組みしています。

【特徴】

地域金融機関として、庄内地域の環境保全に対する取組みについては全職員一丸となって取組みしています。

120-FY2022-03

環境に配慮した業務プロセスの取組み

【原則5】

- ・ 2010 年度よりカーボンオフセット通帳を活用しています。
- ・ 業務車両として積極的にハイブリッドカーを導入しています。
- ・ 店舗設置にあたり、太陽光発電設備の導入や LED 設備の導入を行っています。

【特徴】

節電行動への積極的な取組みと共に CO₂ 排出削減に対する取組みも実施しています。

120-FY2022-04

鶴岡信用金庫の環境方針の制定

【原則6】

自然環境の維持及び改善に努めることは、地域金融機関としての社会的責任であり、環境への負荷の軽減に努力する事は、資源を消費する企業としての責務であると認識し、当金庫の環境問題に対する取組みを内外に明示しています。

【特徴】

当金庫のホームページに掲載し、取組みを広く PR しています。

■ 城北信用金庫

121-FY2022-01

CO₂排出量抑制の取り組み

【原則1】

当金庫は、3ヵ年計画「環境マネジメント2022」を策定し、計画的なCO₂排出量の抑制に取り組んでいます。全拠点へのLED照明導入、低燃費な自動車・バイクへの更新、各業務におけるペーパーレス化等を通じて、今後も継続して電気・ガソリン・水道・コピー用紙の各使用量の削減に取り組んでまいります。

【特徴】

子会社を含む城北信用金庫グループ全体で数値目標を設定し、グループ内で連携することで目標を達成すべく取り組んでいます。

121-FY2022-02

環境に配慮した金融商品の提案

【原則2】

環境省が実施する令和4年度「地域脱炭素利子補給融資制度」に採択されており、環境省から利子の一部について補給を受けられる「地域脱炭素に資するESG融資」を取り扱い、年間100件の目標を設定しています。

また、環境問題に配慮した下記の金融商品を取り扱い、ご提案しています。

- ・「環境保全設備支援ローン」
- ・「城北住宅ローン・エコ」
- ・「城北カーライフプラン・エコ」
- ・「自然エネルギー活用ローン」

【特徴】

地域企業の環境へ配慮した設備の導入や、家庭におけるエコ住宅及びエコカーの取得を支援し、持続可能な社会の形成に寄与することを目的としています。

121-FY2022-03

地域とのパートナーシップ

【原則5】

当金庫は以下の活動に参加しています。

- ・「埼玉県環境SDGs取組宣言企業制度」
埼玉県による、事業者の環境分野の「SDGs」への取り組みを促進する制度です。
- ・「エコフォワード事業者宣言」
荒川区による、環境活動に取り組む事業者の認定制度です。
- ・「おおたクールアクション」
一人ひとりの環境配慮行動の実践によって、二酸化炭素の排出を減らすことを目的とする大田区の区民運動です。

【特徴】

当金庫は、地域の一員として環境への取り組みに積極的に参加し、自治体等と連携することで、地域に組みの輪を広げてまいります。

121-FY2022-04

埼玉県川口市「エコライフDAY」への参加

【原則3】

2022年6月12日(日)、当金庫の川口市内5店舗は、川口市が取り組んでいる地球温暖化防止活動「エコライフDAY2022」に参加しました。

当日は、職員とその家族129名がCO₂排出量削減に配慮した一日を過ごし、合計で134kg-CO₂を削減することができました。

【特徴】

地域が取り組んでいる環境保全活動に、職員が積極的に参加することで、環境保全への関心を広げていくことを目的に取り組んでいます。

121-FY2022-05

SDGsへの取り組み

【原則1】

当金庫ではSDGsの推進に際し、以下のような取り組みを行っています。

SDGs宣言・SDGs基本方針の制定

SDGsに向けた当金庫の主な取り組みの公表

お客さま向け情報提供資料の作成

【特徴】

当金庫は、金融・非金融の両面から、事業活動を通じて地域における様々な課題の解決に取り組むとともに、地域の皆さまにSDGsの理念をお伝えしていくことで、国際目標SDGsの達成に貢献してまいります。

■ 静岡県労働金庫

125-FY2022-01

「静岡ろうきんSDGs実践方針」の策定

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則5】【原則6】【原則7】

〈静岡ろうきん〉は、1953年の誕生以来70年にわたり、一貫して勤労者に寄り添い、その生活を金融面からサポートしてきました。2015年度には、2025年までの10年間で〈ろうきん〉がめざす姿を描いた「ろうきんビジョン」を策定し、高金利カードローン借換えによる勤労者の可処分所得向上や、非正規雇用の勤労者への融資、行政と連携した失業者への就労支援、金融経済教育の推進など、勤労者の生活向上、就労・社会参加、経済的自立のための支援に取り組んできました。

SDGsのスローガンである「誰一人取り残さない」や、全ての人が必要な金融サービスにアクセスでき利用できる状況をめざす、いわゆる「金融包摂」の考え方は、〈ろうきん〉の設立経過や理念、ビジョンと合致するものです。

このような考えのもとで進める金庫の事業や社会貢献活動は、SDGsのめざす「持続可能な社会」につながるとの認識にたち、実践方針の策定と、それに基づいた取組みを進めています。

【静岡ろうきん SDGs 実践方針】：<https://shizuoka.rokin.or.jp/about rokin/housin/sdgs/>

125-FY2022-02

「人々が支え合う共生社会の実現」に向けた金融商品・サービスの提供

【原則3】

静岡県労働金庫は、協同組織の福祉金融機関として「人々が支え合い、喜びをもって共生できる社会の実現」に向けた金融商品・サービスの開発・提供をすすめています。

☐ 妊活サポートローン「あ・ゆ・み」

子どもを望むご夫婦・パートナーが不妊治療を選択する際、負担となる関連諸費用のサポートをするために妊活サポートローン「あ・ゆ・み」を提供しています。

☐ NPO 事業サポートローン

保健、医療、福祉の増進などに資する活動を行い、地域の福祉向上に大きな役割を果たしているNPO法人への金融支援策として「NPO 事業サポートローン」を提供しています。また、日本政策金融公庫との業務連携により、多くの要望に応える体制を整えました。

☐ 福祉ローン

育児休業中の生活費や育児に使用する自家用車・育児用品購入費用など、育児にかかる費用、入院等の医療費、介護にかかる費用、災害復旧に必要な費用など、福祉にかかわる費用を対象とした「福祉ローン」を提供しています。また、「子育て優待カード」の提示で、「福祉ローン(子育て応援ローン)」の金利割引を行っています。

125-FY2022-03

地域社会への貢献活動

【原則3】【原則5】

静岡県労働金庫では、地域社会への貢献活動としてさまざまな取組みを行っています。

☐ 大規模災害発生時の営業店駐車場の無償貸与・防災機器用品の設置

「静岡県」、「特定非営利活動法人静岡県ボランティア協会」および「社会福祉法人静岡県社会福祉協議

会」との間で覚書を締結し、巨大地震の被害発生時に、静岡県災害ボランティア本部・情報センターのボランティア活動等の拠点として、営業店の駐車場の一部を無償貸与します。また、各営業店に防災機器用品を設置しているほか、4 店舗(富士支店、清水支店、磐田支店、静岡中央支店)の受水槽には、飲料水を貯水できるリザーバータンクを設置し、断水に備えています。

□ 『令和3年7月大雨災害静岡県義援金』への寄付

2021 年 7 月に熱海市をはじめとして県内各地に甚大な被害をもたらした豪雨災害の被災者支援として、『令和3年7月大雨災害静岡県義援金』に 100 万円を寄付しました。

□ 福祉車両・車いすの寄贈

1998 年より、毎年県下の福祉施設等へ車いす、福祉車両等を寄贈しています。2021 年度は沼津市の介護福祉サービス事業を行う社会福祉法人へ福祉車両等(車いす移動車)を寄贈し、多くの利用者の送迎等に役立てられています。これまでの寄贈台数は車いす 560 台、福祉車両等 32 台となりました。

□ ロッキーマットの寄贈

静岡県内の県立特別支援学校全 25 校に、各学校からの要望に基づき合計 242 種類(284 冊)の図書を寄贈しました。

□ NPO 法人等の支援

社会が抱えている生活・福祉などの課題解決に向けて、地域で主体的に活動している NPO 法人等の支援活動に取り組んでいます。

- ・ 貧困家庭や孤食の子どもたちに食事を提供し、安心して過ごせる場所となっている「こども食堂」に対し、クリスマスプレゼントとして福祉施設で作られたお菓子(授産品)を提供し、子どもたちの笑顔の創出をしました。
- ・ 静岡県内で子どもたちの健全育成をはかる活動を行っている NPO 等団体を支援するため、2011 年度より寄付を行っています。2021 年度は「公益財団法人ふじのくに未来財団」に対し、子育て支援活動を積極的に行っている NPO への助成資金を寄付しました。「公益財団法人ふじのくに未来財団」発足時からの寄付金の累計は、約 399 万円となりました。
- ・ 静岡県内で障がいがある人の自立支援事業に取り組んでいる「認定 NPO 法人オールしずおかベストコミュニティ」に 2017 年度から寄付を行っています。「認定 NPO 法人オールしずおかベストコミュニティ」への寄付金の累計は、約 65 万円となりました。

125-FY2022-04

環境への取組み

【原則5】【原則6】

静岡県労働金庫は、地球規模で深刻化し世界的に問題となっている環境問題に対し、環境負荷を低減する活動をすすめています。

□ 省エネルギー・省資源化の促進

電気・ガス・事務用紙の削減に向けて数値を集計管理し、役職員が省エネルギー・省資源化の促進に努めています。

□ お客様の商品利用に応じた環境保護団体への支援

対象融資のご利用件数に応じて、環境保護団体である「静岡県地球温暖化防止活動推進センター」へ 2009 年度から寄付し、これまでの寄付金の累計は約 970 万円となりました。寄付金は同センターが行う静岡県内の地球温暖化対策事業への支援や県内小学校における環境教育事業「アース・キッズチャレ

ンジ」の活動費用などに活用されています。

☐ 環境保護活動等への参加

「安倍川流木クリーンまつり」などの地域の美化・環境保護活動に積極的に参加しています。

■ 中ノ郷信用組合

126-FY2022-01

エコアクション21による環境配慮商品・サービスの提供

【原則1】【原則2】

当組合は、エコアクション 21 の環境配慮商品サービスの提供として環境にやさしい企業を応援するため、なかの
ごエコアクションローン、個人のお客様には、なかのごエコリフォームローン、エコ電化ローン、エコカーローンを
取扱っております。

【特徴】

環境に配慮した企業や個人をサポートする組合員を対象とした特別融資です。

126-FY2022-02

エコアクション21認証取得サポート事業を推進

【原則3】

取引先事業所を対象にエコアクション 21 認証・取得をサポートするために支援講座を開設し、環境への取組を取
引先事業所へも推進して環境配慮商品サービスを提供しています。

【特徴】

取引先事業所へエコアクション 21 を取得していただき、エコアクションローンによる事業資金を提供します。

126-FY2022-03

エコアクション21認証・登録

【原則7】

環境への取組を効果的に行うために、環境マネジメントシステム(エコアクション 21)を構築し環境関連法規等を遵
守し、環境方針に沿って二酸化炭素排出量削減、廃棄物排出量削減、総排水量削減、グリーン購入の促進、環境配慮
商品サービスの提供、環境教育を全職員へ行い環境保全の意識を高めています。

年間の活動結果を環境活動レポートにより、ホームページ、店頭、EA21 事務局へ公開しています。

【特徴】

エコアクション 21 認証・登録により社会的責任を高め、環境経営のための仕組みを構築、運用、維持し、全組織、
全役職員に環境保全の意識を高めています。

126-FY2022-04

中ノ郷信用組合「SDGs宣言」

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】

当組合「SDGs 持続可能な開発目標」宣言への取組みとして、地域経済の活性化、地域社会への貢献、環境保全に
対する取組み、人材育成への取組みを宣言します。

【特徴】

金融機関として主力は、「地域経済の活性化」である事業継承・創業支援・事業再生支援に軸足を置いた支援を行
い仕事・職場の維持、発展させることで社会の持続可能性を高める活動を行い SDGs 宣言の「貧困をなくそう、働き
がよいも、経済成長も」に取組んでいる。

126-FY2022-05

東京都内全19信用組合・東京都信用組合協会「SDGs共同宣言」への参画、墨田区 SDGs宣言証の受理

【原則5】

当組合「SDGs宣言」に留まらず、業界団体や行政とも連携し、「SDGs持続可能な開発目標」への取組みを宣言しております。

【特徴】

業界団体や行政と共に、SDGsへの取組みを宣言しております。

■ のと共栄信用金庫

127-FY2022-01

森づくり活動

【原則4】【原則5】【原則6】

2008年5月1日石川県と協定書を締結し、中能登町にある石動山の県有林を借り受け、毎年春と秋の2回人工林の整備(間伐、枝打ち)、下刈り、植林、林道整備や自然体験学習などを行っています。

これまでの15年間で26回森づくり活動を行い、その活動結果は、石川県が2008年に創設した「森林整備活動CO₂吸収量認証制度」で、活動開始から現在までに吸収されると考えられる二酸化炭素量は255.8トン-CO₂と認証を受けました。毎回、職員をはじめ家族、地元住民などがボランティアとして集まり活動しています。

【特徴】

森づくりファンド“やまもり”を創設し、賛同いただいたお客様の定期預金の募集総額に応じて(最大80万円)当金庫が森づくりファンドに拠出し、それを活動原資に森づくりを行うものです。

127-FY2022-02

のとじまの松林再生活動

【原則4】【原則5】【原則6】

当金庫の本店所在地である七尾市能登島地区では、近年、薪を使わなくなったことなどにより松林の手入れが行き届かなくなったことや、松くい虫や台風の被害等により松林が衰退、荒廃し、マツタケをはじめとしたキノコの発生が激減しています。こうしたなか、松林再生活動をつうじて里山づくりを推進し自然豊かな能登の原風景の再生を目指すものです。

【特徴】

作業内容として

(1)比較的緩やかな尾根筋を中心に、既存のマツの生息環境を改善するため、除伐、刈払いや堆積している腐植層の除去を行う。腐植層は、現況では約5～10cm堆積しており、その除去については、尾根筋両側の10～20m程度を除去区域とする。

(2)植樹したマツに巻きついたツタや草を取り除き、日当たりを確保する。

(3)2023年度以降も、活動区域を広げながら実施する。

としております。

127-FY2022-03

SDGs宣言

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則5】【原則6】【原則7】

【特徴】

2019年6月に「のとしんSDGs宣言」を行いました。

1. 中小事業者の皆様の創業、成長、発展、承継を通じた地域経済の持続的発展
お客様のより安心で豊かな生活を実現するための資産形成支援
2. 豊かな自然環境と地域の魅力的な文化・遺産の保全保護及び発信

3. パートナシップ力の強化と協働の推進

を重点項目として掲げ、環境・教育や産業など地域の持続可能性のために取り組んでいます。

2021年10月には「ななおSDGsコンソーシアム」を設立。七尾市や商工会議所、商工会、政府系金融機関、青年会議所などと連携し、幸せな地域未来を協働で創造していきます。

■ 四国労働金庫

131-FY2022-01

金融エコ商品の販売

【原則2】

自宅等の購入・増改築・リフォーム工事において、環境配慮型住宅費用（太陽光発電、オール電化、ガス省エネ、断熱工事等）、耐震型住宅関連費用、バリアフリー住宅費用としてご利用いただける「ナッ得・エコ住宅ローン」や、eco 住宅の場合に金利引下げが適用される「有担保住宅ローン」等の金融エコ商品を通じて、環境負荷の低減に努めています。

131-FY2022-02

社会貢献活動「助成金制度」

【原則3】

2002 年度よりろうきんの基本理念と共通の目的意識を有する NPO 法人やボランティア団体等を対象として、地域住民による福祉活動を支援しています。年 1 回助成金申請を募集し、学識者を含めた選考委員により審査・選定を行っています。2022 年度までの助成金総額は 513 団体で 8,476 万円となっています。

131-FY2022-03

ピンクリボン運動

【原則3】

「女性が健康で長く働くことができる社会づくり」に貢献するため、乳がんの早期診断・早期発見・早期治療の大切さを訴える「ピンクリボン運動」への支援に取り組んでいます。具体期には、当庫ATMの利用 1 件（他行カード含む）につき 1 円を「日本対がん協会」のグループ組織に寄付する活動です。2021 年度の寄付金額は 690,344 円となっています。

131-FY2022-04

四国ろうきん 1 万人笑顔プロジェクト

【原則3】

お客様にご利用いただいたローン 1 件につき 100 円をろうきんが拠出し、「教育関係」、「子育て支援関係」、「障がい者雇用関係」、「環境保護関係」の中からお客様に選択いただき寄付する活動です。毎年 4 月 1 日から 3 月 31 日を取組期間とし、2021 年度は総額 571,500 円を各関係団体へ寄付しました。

131-FY2022-05

ろうきん 5R運動(Rokin の Refuse、Reduse、Reuse、Recycle)

【原則5】

企業の社会的責任(CSR)を果たすため地球温暖化防止に向けた取り組みとして、冷暖房の適正温度設定等クールビズやウォームビズを実施しており、2022年4月からは年度を通して軽装で業務を行っています。また、再生紙や使用済インクリボンの再利用等、資源の有効利用にも努めています。

■ 中国労働金庫
134-FY2022-01
ローン商品の金利引下げによる環境保全に配慮した消費行動の促進
【原則2】
エコカーや環境に配慮した住宅購入等の場合について融資金利の引下げを実施しています。
134-FY2022-02
NPOの活動支援
【原則2】
NPO への助成金および NPO 寄付システム(口座振替による利用者からの寄付)による寄付金を通じて環境保全に取り組む NPO を支援しています。
134-FY2022-03
ESG 債への投資
【原則3】
投資を通じて持続可能な社会の実現に貢献するため、環境分野や社会課題への対応を目的に発行される ESG 債へ投資しています。

■ 東濃信用金庫

152-FY2022-01

環境にやさしい商品の提供

【原則2】

環境保全活動を支援するため、環境にやさしい商品を取り扱っています。

- ・ マイホームリフォームローン・エコ
太陽光発電システム、家庭用蓄電池等の設置を行うための資金にご利用いただけます。
- ・ SDGs型カーライフプラン
ハイブリットカー、電気自動車、燃料電池自動車などの購入資金(中古車含む)の場合は金利優遇が適用いただけます。
- ・ 環境格付融資 とうしん地球環境改善ローン
地球環境改善を積極的に図るための設備等の導入・研究開発・製品化に必要な事業資金にご利用いただけます。
- ・ 地域活力ファンド
各種製造業における CO₂ 削減のための設備資金、環境配慮型の製品の開発・製造に伴う運転・設備資金などにご利用いただけます。
- ・ 省エネルギー設備投資に係る利子補給制度対応ローン
一般社団法人環境共創イニシアチブ(SII)の指定金融機関となり、省エネルギー設備の新設・増設などの省エネ取組みの融資利息の一部が補給される商品をご利用いただけます。

152-FY2022-02

店舗新築時の環境への配慮

【原則5】

「環境への配慮」「地域との融和」をコンセプトとし、お客さまがご利用しやすい店舗作りを進めています。

人感センサー、照明の LED を採用し省エネに貢献

太陽光発電設備による二酸化炭素排出量の削減(一部店舗のみ)

太陽光の地面への反射を防ぐタイルを外壁に使用し温暖化抑制に貢献

超節水型便器による使用水量の削減

■ 尼崎信用金庫

142-FY2022-01

あましんグリーンプレミアム

【原則3】【原則6】

営業エリア内の法人・個人・団体を対象に環境改善に寄与する技術・製品・工法、取組み及びアイデアについて表彰を行う制度です。地球温暖化や資源の枯渇、生物多様性の低下をはじめとする地球環境問題が深刻化している状況下、本表彰制度は、地域内の企業・団体等における環境への取組にスポットを当て、当金庫が表彰し、積極的に発信していくことを通じて環境文化の創造に繋げていくことを目的としています。

【部門・表彰内容】

・環境事業部門

自社で開発した技術や製品・工法などにより環境改善に大きく寄与する一定の効果をあげている事業者を表彰します

・環境活動部門

組織として(個人の場合は個人として)環境問題を意識した活動を通じて、一定以上の効果をあげている先を表彰します

・環境アイデア部門

地域住民から幅広く、環境問題改善に向けたアイデアを募集し、低コストかつ迅速に実現可能であり効果的なアイデアを表彰します。

・SDGs 特別賞

「持続可能な開発目標」に寄与または実現可能なアイデア・経営理念について表彰します。

【特徴】

地域の皆様が行っている環境への取組にスポットをあて、当金庫独自の表彰を行い積極的に発信していくことを通じて、環境文化の創造に繋げていくことを目的としています。

142-FY2022-02

あまちゃん・しんちゃんプロジェクト

【原則3】【原則6】

平成 23 年の創業 90 周年記念事業として開始した営業店による地域貢献活動です。

各営業店で地域のニーズ(地域の課題)の掘り起こしを行い、環境・安全・文化・教育といった幅広い分野で、地域の一員として地域の活性化に取り組んでいます。

〈営業店の主な活動内容〉

- ・ 教育・学童交通安全プロジェクト
- ・ 防犯安全コミュニケーションプロジェクト
- ・ 緑化・環境安全プロジェクト
- ・ 認知症サポータープロジェクト 等

【特徴】

各営業店がそれぞれの地域や自治会などとコミュニケーションを図り、ニーズ(地域の課題)に合った活動を展

開し、地域との絆を深めています。

142-FY2022-03

あましん緑のプロジェクト

【原則3】【原則6】

当金庫は、地元企業として環境保全活動に積極的に取り組むため、あましん緑のプロジェクトを立ち上げ尼崎市沿岸部の国道 43 号線以南の臨海地域に緑豊かな環境をつくり、人と自然の共生を目指す兵庫県の「尼崎 21 世紀の森づくり」に参画しています。

〈これまでの主な活動内容〉

- ・平成 22 年 7 月 7 日 兵庫県と「尼崎 21 世紀の森づくりの推進に関する協定」を締結
- ・本店敷地内に育苗施設を設置し、苗木の里親企業第 1 号として苗木を育成
- ・尼崎市内の本支店に尼崎 21 世紀森づくりを紹介する「苗木の里親コーナー」を設置
- ・職員を「苗木の里親案内人」として養成(苗木の里親の受付・苗木の提供などを行う)
- ・定額積立定期預金「どんぐりの木」の発売
- ・あましん植樹祭の開催(2001 年～2021 年 ※2020 年は中止)
- ・「尼崎 21 世紀の森づくり」育樹活動(除草・間伐)の継続的な取組

【特徴】

兵庫県、尼崎市、地域住民と連携し当金庫が主体的に地域の環境保全活動を推進しています。

■ 北海道労働金庫

149-FY2022-01

省エネルギーの取組み

【原則1】【原則 6】

地球温暖化防止に向け、「冷暖房の適正温度設定」等を実施するとともに、ATM コーナー・営業店内照明の LED 化を順次行い、省エネルギーに取り組んでいます。なお、当金庫が使用する事務用品や機器の購入に際しては、環境に配慮した製品を優先して選択するグリーン購入を実践し、「FSC ミックス認証紙」を使用した冊子の作成などを推進しています。

また、職員の環境問題への意識を高めると共に、働き方改革や健康経営への取組みとして、年間を通して「省エネや節電を意識した働きやすい服装」での勤務を実施しています。

【特徴】

省エネルギー施策により節電、地球温暖化防止に取り組んでいます。

149-FY2022-02

金融エコ商品の取扱い

【原則2】

環境に配慮した金融商品を提供することにより、環境保全に関心の高いお客様をお手伝いし、環境負荷の軽減に努めています。

電気自動車等の環境に優しい車や福祉車両の購入資金を対象とし、当金庫の一般の自動車ローンよりも金利を引き下げた「轟エコ」の提供や、省エネルギー化・バリアフリー化・耐震化工事等を対象とした低金利の「エコリフォームローン」の取扱いもしています。

【特徴】

金融エコ商品の提供により地球温暖化対策に取り組んでいます。

149-FY2022-03

ペーパーレス化の推進

【原則 4】【原則 6】

事業の業務運営に関わる環境負荷を軽減するため、業務用PCの1人1台化や庫内会議のペーパーレス化、本部決裁文書の電子化等のペーパーレス化を推進しています。

【特徴】

紙利用の削減による環境負荷の低減に取り組むと同時に、環境や社会問題に対する役職員の意識向上を図っています。

149-FY2022-04

社会貢献活動

【原則 1】【原則3】【原則5】

(1)「北海道ろうきんつなぐプロジェクト for SDGs」の取組み

当金庫の預金・各種サービス・ローンの利用につき100円件、当金庫ATMの利用(入金・支払のみにつき1円件等)を当金庫が拠出して、地域に貢献する活動を行う団体に寄付しています。本取組みを通じて、各地域で活動する非営利団体との連携により、共生社会の実現に向けて取り組んでいます。

(2)北海道SDGs推進プラットフォームへの参画

「北海道SDGs推進プラットフォーム」が実施する「SDGs 研究会」や「Hokkaido 海のクリーンアップ大作戦」に参画することで、地域課題の解決に寄与しています。

(3)環境債や社会貢献債等の購入

ESG や持続可能な開発目標(SDGs)などの分野への理解を深めるために、環境債(グリーンボンド等購入による発行企業 HP での公表や持続可能な開発目標(SDGs)を展開している企業の社債の購入を行い、この分野の動向について労金業態全体と情報連携を行っています。

【特徴】

「つなぐプロジェクト」を軸に、寄付だけではなく、各種取組みを通じて地域における共助の輪を広げています。

149-FY2022-05

金融リテラシーの醸成

【原則1】【原則5】

(1) 小・中・高・大学生を対象とした金融教育の実施

出前授業などを通して、各年代で必要な金融リテラシーの向上に係る取組みを実施しています。

(2) ニーズのあるNPO団体への「お金に関する学びの場」の提供

NPO団体や子ども食堂と連携し、「お金に関する学びの場」を提供しています。

【特徴】

金融教育実施の際は、多重債務問題・悪徳商法などの消費者トラブルに関する情報について、イラストを交えて分かりやすく紹介した冊子「マネートラブルにかつ！」や当金庫が制作した金融教育教材(動画・ワークシート)等を活用しています。

149-FY2022-06

NPOとの連携

【原則1】【原則3】【原則5】

(1) 直接訪問の取組み

地域課題の解決を担うNPO団体へ全道の営業店が直接訪問し、金融面でのハブとしての役割発揮を通じて、地域課題の解決に寄与しています。

(2) イベント・セミナーへの参加

NPO団体が主催するイベントへ積極的に参加し、団体との連携強化を図っています。

(3) 災害備蓄品の寄贈

消費期限内で更新時期を迎えた飲料水および保存食を全道各地域のフードバンクや子ども食堂等へ寄贈しています。

(4) NPO掲示コーナーの設置

全道の営業店にてNPO掲示コーナーを設置し、連携団体の活動周知を実施しています。

(5) 資金ニーズ対応

NPO法人の事業に係る運転資金や設備資金をご融資し、資金面でNPO活動を支援しています。

【特徴】

中期経営計画(2022～2024 年度)にて、コアバリューのひとつとして掲げた「共生社会の実現」に向け、地域で活動するNPO団体と手を携え、取組みを展開しています。

149-FY2022-07

協同組合間連携

【原則1】【原則3】【原則5】

(1) 協同組合ネット北海道への参画

北海道生活協同組合連合会・JA グループ・道内大学などと、北海道における新たな協同組合連携組織として2020年6月1日に発足した「協同組合ネット北海道」へ参画しています。

(2) 北海道生協連との連携

- ① 北海道生協連と連携し、生協組合員の可処分所得向上に資する取組みを実施しています。
- ② コープさっぽろが主催する「食べる・たいせつフェスティバル 2022」へ参画し、将来を担う子どもたちへ体験を交えた金融教育を実施しています。
- ③ 大学生協と連携して、「口座開設キャンペーン」や「成年年齢引き下げ」等をテーマとした「金融教育」を実施しています。

【特徴】

当金庫も参画している協同組合ネット北海道では、＜ゆるやか＞＜あいのり＞＜やってみる＞を連携のキーワードとし、単一の協同組織では解決できない地域課題を協同組合間連携等による解決をめざしています。

■ 茨城県信用組合

151-FY2022-01

「茨城県認知症の人にやさしい事業所」の認定

【原則1】【原則3】【原則4】【原則5】【原則7】

令和4年10月6日、茨城県が推進する認知症施策「茨城県認知症の人にやさしい事業所認定事業所」の対象事業者として認定されました。この事業は、認知症の方が住み慣れた地域で暮らし続けられるために、日々の生活を送るうえで必要とする事業所で、「認知症サポーター養成講座」を受講した職員等が勤務し、やさしい対応や声かけ等を実施している事業所を認定するものです。店頭に目印となるステッカーを掲示し、普及・啓発に努めています。

151-FY2022-02

社会貢献活動の強化

【原則3】【原則7】

○献血運動の実施

「しんくみの日週間」に関する活動の一環として、医療に必要な血液の安定的確保に寄与するため、茨城県赤十字血液センターの協力により、献血活動に協力しています。当組合は、平成22年10月に「献血サポーター」となりました。平成26年度からは、全職員・関連会社の職員を対象に、8～9月の2ヶ月間、「献血バス」並びに「献血ルーム」での献血協力を実施しております。企業献血の実施は今回で10回目となります。今年度は延べ180名が協力しました。

○食品等の寄贈

同じく「しんくみの日週間」に関する活動の一環として、コロナ禍により生活が困窮した方々を支援するため、特定非営利活動法人フードバンク茨城へ当組合役職員等から持ち寄った食品等(約4,400点 1.48トン)を寄贈いたしました。今後も、継続してフードドライブ活動に取り組むなど地域社会の課題解決や発展に貢献してまいります。

151-FY2022-03

がん検診受診率向上のための取組み

【原則1】【原則4】【原則5】

茨城県では、がんによる死亡率の低減を図るため、県と企業、事業者及び団体が「がん検診受診率向上企業連携プロジェクト」として協定を締結し、連携してがん検診の受診率向上に取り組んでいます。当組合でも県と協定を締結しました。そして平成29年から、県が主催する「茨城県がん検診推進サポーター養成研修会」へ参加しています。

また、茨城県では10月を「茨城県がん検診推進強化月間」と定め、がん検診をはじめとする、がんに関する正しい知識の普及・啓発に取り組んでいます。この取組みの一環として、県主催による講演会のポスターやリーフレットを当組合全支店の窓口やロビー等に備え置き、普及・啓発に努めています。

151-FY2022-04

障がい者・高齢者等に配慮したサービス向上について

【原則1】【原則3】【原則7】

耳の不自由な方の相談内容に的確に対応するためのツールとして「コミュニケーションボード」を窓口に備え置き、渉外係は携行するようにしています。また、目が不自由な方が利用できるATMを設置し、ホームページに

て公表しています。

151-FY2022-05

カーボンオフセット通帳の導入

【原則2】【原則6】

令和 2 年 11 月より、通帳の製造過程で排出された二酸化炭素をカーボンオフセットするなど、環境面に配慮した新デザイン通帳の導入をいたしました。また、色の識別が不自由なお客さまや、ご高齢のお客さまに配慮した金融サービス向上の一環として、メディア・ユニバーサルデザインを採用しています。

151-FY2022-06

茨城県信用組合 SDGs宣言の公表

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則5】【原則6】【原則7】

当組合は、事業活動がお客さま、地域、役職員が共に成長する好循環を生み出し、地域の経済や社会の持続的な繁栄に繋がることを目標に取組んでまいりました。

その取組みが、国連が提唱する持続的な開発目標(SDGs)と理念を同じくするものと考え、令和 2 年 11 月 25 日に「茨城県信用組合 SDGs 宣言」を公表いたしました。当組合が取り組むべき目標を「地域経済の活性化」「地域社会への貢献」「人才の育成」「地域環境の保全」の大きく 4 つに分類し、持続可能な社会の実現に努めてまいります。

151-FY2022-07

ソーシャルボンド・グリーンボンドへの投資

【原則1】【原則5】【原則7】

持続可能な社会の実現への取組みの一環として、ESG(環境・社会・企業統治)課題を考慮したソーシャルボンド(社会貢献債)及びグリーンボンドへの投資を行っています。

■ 西尾信用金庫

152-FY2022-01

地球温暖化対策への取組み

【原則1】【原則3】

- ・LED 照明の導入
- ・電気自動車・電動バイク・電動自転車の使用
- ・新築店舗への太陽光発電設備の設置
- ・ATM の待ち受け画面の節電化(ATM 省電力対応システムの導入)
- ・環境配慮型商品購入資金への融資商品(ECO カーローン、リフォームプラン・エコ)の発売
- ・本店・本部の空調設備更新による CO₂削減
- ・環境コンサルティング紹介業務の開始
- ・「にしん環境方針」の制定

等に取り組んでいます。

152-FY2022-02

ペーパーレス化への取組み

【原則 1】

令和 1 年 10 月より、紙の通帳をスマートフォン上のアプリで代用することで、入出金明細や残高が確認できる取扱いを開始しました。令和 3 年 8 月より、総合口座定期預金の取扱いを可能とする等、アプリの機能を拡充させています。

また、お客さまとの各種取引においてもシステム化を進め、伝票や申請書類等のペーパーレス化に取り組んでいるほか、金庫内においてもペーパーレス会議の導入や WEB 化推進による紙使用量の削減などに努めています。

152-FY2022-03

SDGs への取組み

【原則 1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則5】【原則6】【原則7】

- ・「にしん SDGs 宣言」を公表
- ・「にしん SDGs 私募債」の取扱いを開始
- ・「にしん SDGs 応援ローン」の取扱いを開始
- ・LGBT/育休対応住宅ローンの取扱いを開始
- ・「愛知県 SDGs登録制度」へ登録
- ・「にしん SDGs評価サービス」の提供を開始
- ・発売総額に応じて子どもの貧困対策関連基金へ寄付する定期預金・定期積金商品の発売

等を実施しました。

152-FY2022-04

新型コロナウイルス感染症への対応

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則5】【原則7】

- ・新型コロナウイルス感染症に係る各種助成金、給付金等の相談会の開催および申請サポート
- ・発売総額に応じて医療関連基金へ寄付する定期預金商品の発売
- ・空中映像によるタッチレス操作ができる ATM の導入
- ・西尾市商工会議所と連携した職域ワクチン接種への取組み

等を実施しました。

152-FY2022-05

地域の活性化への取組み

【原則1】【原則3】【原則5】【原則7】

- ・お取引先が経営支援に関する課題を当金庫の専門部署に直接相談できる窓口「経営サポートプラザ」の設置
- ・お取引先における人材ニーズをサポートする人材紹介業務の開始
- ・地場の証券会社である岡地証券(株)との包括的業務提携契約の締結
- ・「M&A 支援機関登録制度」への登録
- ・「原油・原材料等の価格高騰関連の融資相談窓口」の設置
- ・「原油・原材料等価格高騰対策特別融資」の取扱い開始
- ・(株)商工組合中央金庫との「シンジケートローン業務」および「事業再生・経営改善支援に関する業務協力」の締結

等を実施しました。

■ しずおか焼津信用金庫

168-FY2022-01

エコアクション 21 の取組み

【原則1】

当金庫では、「自然環境の保全と環境にやさしい事業活動を念頭に、地域社会と調和して継続的な環境保全活動に取り組みます」という環境基本方針を掲げ、平成 20 年より環境経営システム「エコアクション 21」に取り組んでいます。

行動方針および環境目標に基づいて定めた計画に沿って、環境に配慮した活動に取り組むとともに、PDCA サイクルを基本としたエコアクション 21 を通じて、継続的な改善を図っています。

【特徴】

活動推進にあたっては全店より CSR リーダーを選任し、取組みを強化しています。また、県内金融機関において、エコアクション 21 の認証登録取得(平成 21 年に本部・本店、平成 25 年には全店にて取得、令和元年7月の合併により規模拡大)は初となっています。このような取組みが評価され、平成 25 年には環境省試行事業「チャレンジエコアクション 21」の参加金融機関に選出され、地元企業の環境経営導入支援を行いました。

168-FY2022-02

カーボンニュートラルへの取組み

【原則 1】【原則5】

令和4年10月にカーボンニュートラルに関する対応規定を制定し、組織的な推進の体制整備を図りました。

【カーボンニュートラルに関する施策】

1. 気候変動イニシアチブ(Japan Climate Initiative)への参加・賛同表明

令和4年10月、気候変動対策に積極的に取り組む企業や自治体、団体、NGO などが集まり、情報発信や意見交換をするネットワークである気候変動イニシアチブへ当金庫も参加し、賛同を表明しました。

2. 鈴与商事㈱との連携(お客様向け可視化ツールの提供、支援)

令和4年10月、当金庫取引先のカーボンニュートラル・DX に関する取組支援策の強化を目的に、鈴与商事㈱とビジネスマッチング契約を締結しました。

CO₂排出量可視化プラットフォーム「EcoNipass」のサービス契約、カーボンニュートラルに関連したエネルギーシステム及び設置工事、DX に関連した商品・サービスの導入・契約を支援します。

3. 「静岡 Green でんき」の導入

令和4年11月より当庫本部棟で使用する電気に、静岡県内に立地する各水系(大井川・天竜川・富士川・安倍川)にある水力発電所の再生可能エネルギー由来の環境価値を活用した静岡県産の CO₂排出量ゼロの電気「静岡 Green でんき」を導入しました。導入により、当金庫が排出する年間 CO₂排出量の約 17%(335t)を削減します。

168-FY2022-03

環境配慮型金融商品の取扱い

【原則2】

自らが販売・提供する商品への環境配慮として下記の商品を取扱い、環境に配慮した融資資金については金利を優遇しています。

1. SDGs応援融資「SDGs セレクトローン」

静岡県信用保証協会と連携し、SDGsに取組む地域事業者を金融面から支援します。

2. 環境配慮型商品「カーライフプラン・エコ」「リフォームプラン・エコ」

エコカーの購入資金、エコ関連設備の購入・設置資金等、環境配慮型の消費者ローン商品です。

【特徴】

お客様のニーズと照らし合わせ、商品性等の見直しを図っています。

168-FY2022-04

しずおか未来の森サポーター「谷津山再生活動」の実施

【原則3】【原則4】

当金庫では、平成22年より静岡市中心市街地にある里山「谷津山」の整備活動に取り組んでいます。市街地の緑地として重要な役割を担っている谷津山ですが、近年放置竹林が広がり土砂崩れなどの恐れがあることから、当金庫では市民の憩いの場、自然体験等の環境教育の場として再生し、未来に自然を残そうと活動しています。活動内容は以下の通りです。

1. 整備活動(下草刈り、竹の伐採)

地域の環境保全活動として、役職員が整備活動を実施しています。

2. 環境教育活動

子供たちが自然に触れながら、楽しく学べるように、自然教室や工作体験等を実施しています。

3. PR活動

店頭、HP、社内外のイベント会場にて、谷津山の現状や当金庫の活動内容を紹介しています。

4. ハイキングコースの整備

谷津山散策用の案内看板を谷津山内に設置し、見どころを紹介しています。

5. 植樹

平成24年3月、当金庫が日頃整備活動をしているエリアにおいて、創立80周年を記念した植樹会を実施しました。

【特徴】

しずおか未来の森サポーター活動として、平成22年に静岡県と協定を締結し、社会貢献活動の一環として取り組んでいます。この取組みにおいては、地元に着目する環境保全活動を通じ、社員教育も実施していることが評価され、平成27年8月に環境省・環境人材育成コンソーシアムが主催する「環境人づくり企業大賞2014」で奨励賞を受賞したほか、平成29年6月全国信用金庫主催 第20回「信用金庫社会貢献賞」でface to face賞を受賞しました。また令和2年10月、取組みから10年が経過し、しずおか未来の森サポーター企業表彰式において功労表彰をいただきました。

168-FY2022-05

環境配慮型の店舗づくり

【原則6】

「環境への配慮」をコンセプトとし、下記のような環境配慮型設計を取り入れながら、お客様がご利用しやすい店舗作りを進めています。

- ・太陽光発電設備による二酸化炭素排出量の削減
- ・LED照明を採用した省エネ対策
- ・熱遮断ガラスフィルムによる空調負荷低減、自然採光の有効活用
- ・駐車場の緑化、熱交換塗料の塗布
- ・本部用営業車として電気自動車(2台)導入

【特徴】

エコアクション 21 環境目標項目「二酸化炭素排出量の削減」に関する取組みとして位置付けており、店舗新築時には環境配慮型の店舗設計、及びエコカーを推進しています。

168-FY2022-06

SDGsへの取組み

【原則 5】【原則6】【原則7】

持続可能な社会の実現を目指して、SDGsに取り組んでいます。

【特徴】

・SHIZUOKA SDGs Action！の実施

当金庫のSDGs推進企画として、地方公共団体(静岡市・焼津市・藤枝市・富士市)やSDGsに先進的に取り組む地元企業と連携して「SHIZUOKA SDGs Action！」を実施しています。具体的には、取引先企業のSDGsへの取組みを当金庫支店の店外ディスプレイや、当金庫HPのSDGs専用ページで情報発信し地域内外へPRする事業です。またSDGsに係る事業の為にクラウドファンディングの活用支援も行い、三位一体型支援として展開しています。

■ 飯田信用金庫

179-FY2022-01

事業活動における環境負荷軽減の取り組み

【原則1】【原則6】

電力等エネルギー使用量の削減に取り組み、令和3年度の二酸化炭素排出量は 1,086 トンとなり、基準年度とする平成 12 年度に比べ 42.9%削減することができました。この結果、預金 1 億円あたりの二酸化炭素排出原単位は 0.18 トンとなり、平成 12 年度に比べ 61.7%減少しております。

179-FY2022-02

リサイクルの推進

【原則1】【原則6】

- ・ 廃棄物のリサイクルをすすめ、令和3年度は事業活動により発生する廃棄物の 95.7%をリサイクルいたしました。総廃棄物量は 55,835 kg で、廃プラと廃タイヤはサーマルリサイクル(高炉燃料)、その他はマテリアルリサイクル(再資源化)しております。
- ・ 環境に配慮した素材の利用を進めており、ユニフォームのスカートはペットボトル再生繊維を 60%使用しており、使用後の制服はサーマルリサイクルしております。また、紙 100%で出来たエコクロス通帳の利用やベジタブルインキの利用をしております。

179-FY2022-03

二酸化炭素排出量削減に効果のある商品の購入に際しての融資金利を優遇するローンの取り扱い

【原則2】

平成 17 年度から二酸化炭素排出量削減に効果のある商品の購入に際しての融資金利を優遇するローンを取り扱っております。令和3年度の住宅関連融資については 42 件 1,160 百万円の新規ご利用をいただき、二酸化炭素排出量削減効果 は 165 トンとなっております。

179-FY2022-04

環境情報の発信等

【原則3】【原則4】【原則5】【原則7】

- ・ 通帳ケース、証書ケースをプラスチック素材から紙素材へ変更し、プラスチック資源の削減を行いました。
- ・ 飯田市の「燃やすごみ」袋へ当金庫の広告を掲載しております。なお広告料は飯田市の環境改善政策に活用されております。
- ・ 地域ぐるみ環境 ISO 研究会へ参加しております。
- ・ 長野県環境保全協会事業へ参加しております。
- ・ 飯田市条例に基づく住民主体の再生可能エネルギー事業の支援をしております。
- ・ ISO14001 最新規格 2015 年版へ認証を更新しました。
- ・ 本店ビルにCO₂フリーでんきを導入しました。

■ 大阪シティ信用金庫

233-FY2022-01

緑化支援事業を応援する積金商品の発売と寄付金の寄託

【原則2】【原則3】

大阪府が「みどりの風を感じる大都市・大阪」をめざして実施している緑化支援事業を応援するため、平成 27 年から毎年 6 月の「信用金庫の日」に「シティ信金“みどりの風の道”定期積金」を発売しました。

販売終了後、同積金の総契約額の 0.05 % 相当額を当金庫が拠出し、大阪府に寄託しています。

贈呈式では、当金庫の高橋理事長が大阪府の田中副知事に寄付目録を贈呈し、またその寄付に対し、大阪府から感謝状を受領しました。寄託金は、緑化重点区域の活動資金に充てられます。

【特徴】

今年も 6 月 15 日に積金を発売し、同様に契約額の一定額を寄託しました。

233-FY2022-02

環境への配慮、環境意識の向上を応援する金融商品の発売

【原則2】【原則3】

「大阪シティリフォームローン増・快・築」を取り扱っており、環境に配慮した設備の導入資金としてご利用いただく場合、金利を「0.402 % (シーオーツー)」引き下げ優遇しています。

また、特に環境性能に優れた自動車を購入される場合に、通常のカーローンより低廉な保証料率でご利用いただける「カーライフプラン・エコ」を取り扱っています。

ほかにも、環境問題に積極的に取り組む日本国内の株式に分散投資し、長期安定的な信託財産の成長をめざすエコ・ファンド「損保ジャパン・グリーン・オープン/ 愛称・ぶなの森」を取り扱っています。

233-FY2022-03

環境負荷の少ないエコ製品を粗品に採用

【原則2】【原則3】

お取引先に配布する粗品について、環境にやさしい洗剤や、漂白剤不使用のタオル、再生紙のメモ帳・ポケットティッシュなどを採用しています。

令和 2 年 10 月からは、窓口などでお客さまにお配りする頒布品の一つとして、新たにエコバッグを採用しました。エコバッグの利用促進によりレジ袋の使用を減らし、プラスチックごみを削減することで、海洋プラスチック汚染の防止をはじめとした環境保護に貢献します。

233-FY2022-04

全店で店舗近隣エリアの早朝清掃を実施

【原則2】【原則3】

当金庫では、昭和 59 年から 30 年以上にわたり、全店で店舗近隣や駅前、公園などの早朝清掃を実施しています。地域の一員としての社会的責任と地域への感謝の気持ちをもって各店が自発的に実施してきたもので、毎月実施しています。また、当金庫の創立記念日(11 月 11 日)と信用金庫の日(6 月 15 日)には、本部を含めて全店一斉に早朝清掃を実施しています。

233-FY2022-05

職員による環境負荷低減の取組

【原則7】

日常の業務運営において役職員に常に環境保護の意識を持ってもらうため、冷暖房空調機器、OA 機器、照明器具などにおいて、無駄な電力使用(省エネ ATM や LED への更新、照明器具の削減、稼働時間の短縮等)を排除するとともに、夏季に「クールビズ」、冬季に「ウォームビズ」を実施し、省エネに努めています。

233-FY2022-06

「シティ信金SDGs私募債 輝くみらい」の取り扱い

【原則1】【原則4】【原則6】【原則7】

本私募債は、企業が私募債を発行する際に、発行企業が選定した日本国内の法人・団体等に対し、SDGs の 17 のゴールを達成するための用途に用いられる物品等(発行金額の 0.2%以上相当額)を寄贈する寄附型の私募債です。趣旨に賛同された取引先企業が本私募債を起債し、当金庫がその引き受けを行うものです。

【特徴】

令和4年9月27日付で同私募債の引き受けを2社実施。それぞれ、八尾市消防本部への消防器具および石油ストーブ、大阪府「子ども輝く未来基金」への寄付金を寄贈しました。

233-FY2022-07

投資信託購入時手数料総額に応じた大阪府「子ども輝く未来基金」への寄付

【原則1】【原則6】【原則7】

約定日が令和4年7月1日～令和5年1月31日となる投資信託の買付について、当金庫が受領した購入時手数料(消費税除く)の合計金額の1%相当額を子ども輝く未来基金に寄付します。

同基金は、子ども食堂等で活用する学習教材、文房具、知育玩具購入費用の補助、キャンプなど自然体験・スポーツ活動・科学体験活動・文化芸術活動などに係る費用の補助(入場料・交通費など)、児童養護施設等で生活する子どもへのプリペイドカードの支給・児童扶養手当を受給しているひとり親世帯の子どもへの自転車や学習用品等の提供などに役立てられます。

【特徴】

令和2年度から実施しており、令和3年度は698,091円を同基金に寄付しました。

233-FY2022-08

環境省「令和4年度 地域ESG融資促進利子補給事業」の指定金融機関として採択

【原則1】【原則3】【原則4】【原則6】【原則7】

本事業は、一定の要件を満たす再生可能エネルギー・省エネルギー設備投資に対する ESG 融資について、環境省が最大1%・最長3年間の利子補給を行うものです。

当金庫では、本事業の活用により中小企業者の環境負荷低減への取り組みを支援するとともに、ESG 融資について「2022 年度 50 件」を目標とし積極的に推進することにより、地域の環境や社会的な課題解決と持続可能な社会の実現に努め、地域経済の活性化に貢献してまいります。

233-FY2022-09

SDGs推進保証融資「ウイング」を取り扱い

【原則1】【原則3】【原則4】【原則6】【原則7】

地域のお取引先中小企業者に対し、SDGs の達成に向けた取り組みへの関心を高め、その普及を促すことを目的に、大阪信用保証協会と連携し、SDGs 推進保証「ウイング」の取り扱いをしています。

【特徴】

本保証制度は、SDGs の達成に向けた事業活動を営む中小企業者(今後取組予定を含む)を対象として、信用保証料率を一律 10%割引することで、SDGs の普及促進を通じて、中小企業者の維持・発展と持続可能な社会の実現に資することを目的としています。

233-FY2022-10

日本政策金融公庫「地方創生CLOローン」の取り扱い

【原則1】【原則3】【原則4】【原則6】【原則7】

当金庫は、令和3年10月から、日本政策金融公庫と連携し、「地方創生CLOローン」の取り扱っています。本スキームは無担保ローンを実行し、証券化することで貸出債権の信用リスクを市場に分散することができ、地方創生を担う中小企業への円滑な資金供給にも貢献します。

【特徴】

地方創生CLOは、社会貢献度の高い全国プロジェクトとしてソーシャルボンド評価を3年連続で取得し、2020年度は最上位格付「Social 1」を取得しています。

当金庫は本地方創生CLOに参加し、地域中小企業への地方創生に資するプロパー資金の供給を通して、SDGs目標の達成に向け取り組んでいます。

233-FY2022-11

「健康産業有望プラン発掘コンテスト」に特別協賛

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則7】

当金庫は、公益財団法人大阪産業局と「健康産業有望プラン発掘コンテスト」を共同開催しています。

当金庫の本コンテストへの参画は、特別協賛を含め6年連続となります。

大阪府では、健康寿命延伸産業分野での新事業創出支援のため「大阪健康寿命延伸産業創出プラットフォーム(略称:OKJP)」を設置(事務局運営:大阪産業局)し、産学金官が連携して健康関連事業者の取り組みをサポートしています。

その一環として、事業化支援を行うプランを選定する当コンテストを実施し、優れたビジネスプランを発掘するとともに、ヘルスケア・アクセラレーター(※)等による伴走支援を実施し、大阪の健康産業の将来を見据えた新たな日常生活に対応するヘルスケアビジネスの創出をめざします。

当金庫は、大阪府と中小企業振興に関する連携協定を締結し、インバウンド誘致に伴う宿泊施設等の設備の融資などにも取り組んでいます。本健康産業支援を含め、今後とも大阪府と連携し、地域経済の活性化に努めてまいります。

※ヘルスケア・アクセラレーター:ヘルスケアビジネスの事業化を支援する人材。

【特徴】

1. 募集プラン

- ・テーマ:「大きく羽ばたくヘルスケアビジネス」
- ・対象:健康寿命延伸につながるビジネスの構想段階のプランや事業化1年程度のビジネスプラン

2. 審査

- (1)1次審査(書類審査)
- (2)2次審査(オンライン面談審査)
- (3)最終審査(公開プレゼン審査)、審査結果発表、表彰式
 - ・日時:令和4年11月18日
 - ・会場:QUINTBRIDGE(大阪市都島区東野田4丁目15番82号)

3. 表彰

- ・大阪府知事賞(最優秀賞)(1社):50万円
- ・優秀賞(1社):20万円
- ・大阪シティ信用金庫賞(2社):10万円

・ファイナリスト賞(10 社) :1 万円の商品券

※当金庫は事業化支援資金として上記(計 100 万円)を提供。

4. 主 催(共 催)

大阪シティ信用金庫、公益財団法人大阪産業局による共同開催

233-FY2022-12

「ゼロカーボンシティやお推進協議会」への参画

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則7】

八尾市は、2050 年度までに市域の二酸化炭素排出量実質ゼロをめざすため、「ゼロカーボンシティやお」を宣言しました。脱炭素社会を実現するためには、一人ひとりが地球温暖化対策に寄与する意識改革行動変容が求められるため、「ゼロカーボンシティやお」推進協議会を設立し、市民、事業者等と協力・連携しながら市域全体で地球温暖化対策の更なる充実を図る取り組みです。

当金庫は、八尾市との包括連携協定に基づく事業について協議するなかで、八尾市環境部環境保全課から推進協議会への参画要請を受け、本趣旨に賛同し、参画したものです。

【特徴】

＊推進協議会について

(1)構成団体

ゼロカーボン推進する環境省、国土交通省、大阪府など行政機関をはじめ、八尾市内で活動する、大学、企業、業界団体などで構成される。金融機関の協議会への参画は、当金庫が第一号となる。

(2)活動内容(予定)

①総会、セミナーの開催

②行政ならびに会員企業、団体との情報共有

③市内企業のカーボンニュートラル達成に向けた取り組みへの融資(ESG 融資)

233-FY2022-13

お取引先企業と連携し「こども食堂支援自販機」を設置

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則7】

当金庫は、令和 3 年 9 月から、お取引先が会長を務める「一般社団法人西成産業会」(大阪市西成区、会長 甲斐田安三)と連携し、当金庫の営業店に「こども食堂支援自販機」を設置しています。

【特徴】

自販機から得られる売上の一部を地元、西成区の子ども食堂に寄付するもので、当金庫も趣旨に賛同し、「西成産業会」の会員企業が多く所在する萩之茶屋支店(大阪市西成区)、北加賀屋支店(大阪市住之江区)に設置しています。

子ども食堂は、貧困などで満足に食事をとれない子どもおよび親が、気軽に立ち寄り、食事ができる場所で、全国に約 5,000 カ所、大阪府に 400 カ所以上あります。

233-FY2022-14

営業店に農産物直売所「YACYBER直売所」を設置

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則7】

当金庫は、地元の生産者と消費者をつなぐ地産地消の推進や、キャッシュレス決済の普及促進を図ることを目的として、YACYBER株式会社(本社 大阪市、代表取締役 唐澤太郎)と連携し、営業店の ATM コーナー等にキャッシュレス・無人の農産物直売所「YACYBER直売所」を設置しています。

金融機関での「YACYBER直売所」の設置は、全国で初めての試みとなります。

この直売所は無人で、大阪府内で生産された農産物「大阪産(もん)」を中心に、近隣農家の農産物をスマートフォンのキャッシュレス決済等により購入することができます。

令和3年3月からは、大阪市と平成28年11月に締結した包括連携協定に基づく健康増進への取り組みの一環として、大阪市内店舗の「YACYBER直売所」に「野菜レシピ」を配架しています。

大阪市健康局健康推進部健康づくり課は、市民の健康づくりのため、栄養バランスのよい食事の実践および野菜摂取量の増加を促すレシピを、クックパッド公式キッチン「大阪市たべやんレシピ」に掲載しています。

同レシピは「簡単で」「めんどくさくない」をコンセプトとしており、当直売所に農産物とともに配架することで、来店されるお客さまに日常的に野菜を食べることを呼びかけ、健康づくりに貢献する取り組みです。

【特徴】

「YACYBER直売所」設置店舗(令和4年12月現在)

本店営業部、森ノ宮支店、八尾営業部、平野支店、北山本出張所

233-FY2022-15

大阪ユニセフ協会との連携活動ならびに「ユニセフ支援自販機」の設置

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則7】

当金庫の河村会長が常務理事を務める大阪ユニセフ協会のイベント協賛、参加を通じて、海外で内戦や干ばつなどで貧窮する子どもたちを支援しています。

紛争地や被災地などで支援を必要としている世界の子どもたちの写真や、救援物資、機関誌などを営業店のロビーなどに展示し、ユニセフの支援活動の周知に協力しているほか、チャリティウォークやチャリティバザーにも協賛し、役職員がイベントに参加しています。

令和3年5月からは、本店B2食堂および営業店9カ店に、売上の5%を大阪ユニセフ協会に寄付する支援自販機を設置し、活動の周知ならびに寄付を通じた活動資金を支援しています。

【特徴】

- ・本店B2食堂の「ユニセフ支援自販機」は、主に役職員が利用しています。
- ・営業店では、道路に面した店外に設置し、職員のみならずお取引先、通行人など、広く購入いただけるようになっています。
- ・令和4年11月現在の「ユニセフ支援自販機」設置営業店は、西支店、住道支店、上小阪支店、日本橋支店、加島支店、御厨支店、吉田支店、初芝支店、枚岡支店です。

233-FY2022-16

営業店に「サイクルポート(シェアサイクル)」を設置

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則7】

当金庫は、大阪府内約240箇所、約1,300台のシェアサイクルを運用する株式会社ドコモ・バイクシェア(本社 東京都港区、代表取締役 堀清敬)と提携し、営業店にサイクルポート(シェアサイクル)を設置しています。

本提携は、お客さまの利便性向上や周辺施設への回遊促進、自転車の利用促進による健康増進およびCO₂削減等に寄与することを目的としており、金融機関でのサイクルポートの設置は、関西で初めてとなります。利用者は同社ウェブサイトまたはスマートフォンアプリで会員登録のうえ、クレジットカード決済等によりキャッシュレスでシェアサイクルを利用することができます。

※サイクルポート…シェアリング自転車の貸出、返却および保管場所

【特徴】

「シェアサイクル」設置店舗(令和4年12月現在)

阿倍野支店、住吉支店、都島本通支店、生野中支店、加美北支店、森ノ宮支店、港支店、恩加島支店、平野支店

233-FY2022-17

大阪府の障害者雇用促進基金(大阪ハートフル基金)とタイアップした定期積金を発売

【原則1】【原則2】【原則3】【原則7】

当金庫は、平成 28 年から、毎年 11 月に、大阪府の障害者雇用促進基金(大阪ハートフル基金)とタイアップした定期積金「シティ信金 ハートフル定期積金」を発売しています。

本定期積金は、平成 28 年の大阪府との連携協定に基づく事業として、障がい者の働く機会の拡大や社会的理解を向上させる事業等への一助となるよう、掛金総額の 0.025%相当額を「大阪ハートフル基金」に寄付するもので、SDGs(持続可能な開発目標)達成に向けた当金庫の取り組みのひとつです。

7回目となる今回は、本定期積金をご契約いただいた方に、大阪府内の福祉施設で障がい者の方々が一つひとつ丁寧に手作りした「布製通帳ケース」または「花びらキーホルダー(皮革製)」を進呈します。

【特徴】

* 寄付内容

本定期積金取扱終了時点の掛金総額の 0.025%相当額を当金庫が拠出し、「大阪ハートフル基金」に寄付します。

お客さまに寄付金の負担はなく、本定期積金をご契約いただくことで、障がい者の働く場と機会を積極的に広げ、障がい者が働きやすい職場づくりを進める事業主を応援する大阪府の事業にご協力、ご参加いただけます。

今年も 11 月 1 日に積金を発売し、同様に契約額の一定額を寄託します。

233-FY2022-18

シティ信金「SDGsチャレンジ」を開始

【原則1】【原則2】【原則3】【原則7】

当金庫は、令和 3 年 11 月から、「シティ信金『SDGs チャレンジ』を開始しました。

SDGs は、17 テーマからなる普遍的な社会課題がゴールとして設定されており、各所属ならびに役職員それぞれが、SDGs 達成に向けて、継続的に何ができるか考え、実践していくことが肝要となります。また、SDGs は 2025 年開催の大阪・関西万博でもメインテーマでもあります。

本取組は、今後、役職員個人、グループを問わず、業務上、生活上の身近な SDGs に取り組み、日常の行動変容から SDGs 達成につなげていくものです

【特徴】

「SDGs チャレンジ」実施案

1. 参加単位

所属単位、役職員個人、グループ問わず

2. 取組内容

SDGs 達成につながる身近な活動の継続

3. 個人でできる取り組み例

- ・電灯のスイッチをこまめに消す
- ・手洗い時、水道の出しっぱなしを控える
- ・残業短縮による節電、ワークライフバランスに努める
- ・コピー用紙、伝票使用枚数の削減
- ・粗品の発注数抑制による期限切れ粗品廃棄の最小化
- ・食べ残さない
- ・日用品、文具はしっかり使い切ってから次のモノを使う
- ・営業店および家庭の冷蔵庫内の格納を少なくし、必要数をこまめに買う。
- ・野菜の芯や茎なども捨てずに食べる

- ・すぐに食べない肉類は冷凍する
- ・認証マークの商品を買う(エシカル消費)
 - ・国際フェアトレード認証(コーヒーやチョコレートなど人権や環境に配慮された商品)
 - ・有機 JAS(野菜や畜産物などオーガニック製品)
 - ・MSC 認証(生態系に配慮した漁業で獲った水産物)
 - ・ASC 認証(資源を守るための規定をクリアした養殖水産物)
 - ・RA 認証(コーヒーなど熱帯雨林保護に配慮した作物)
 - ・FSC 認証(森林の持続管理に配慮した牛乳パック、紙製品、印刷物)
- ・マイバッグ、マイボトルを持ち歩く
- ・空調および換気効率向上のため扇風機やサーキュレーターを併用
- ・簡易包装や詰め替えの商品を選ぶ(シャンプー、洗剤など)
- ・地産地消に努める(大阪産野菜、近隣県産の畜産・農作物など)
- ・使わないおもちゃ、本、服の寄付
- ・自動車、バイクでの移動を減らす
- ・家事、雑用の分担見直し
- ・金融知識・経験を生かしたボランティア(プロボノ活動)
- ・趣味、特技を生かしたボランティア(スポーツ・芸術の指導、祭祀の手伝いなど)
- ・自治会活動

4. 各所属でできる取り組み例

- ・暖房は 20℃に設定し、ウオームビスを励行(上着や発熱性下着の着用、ひざかけの活用など)
- ・ロビー展(近隣の教室、サークルと連携)
- ・職場体験の受け入れ(近隣の学校と連携)
- ・セミナー(年金応当日に特殊詐欺事例紹介など)
- ・ロビーで地元の課題をテーマに研究発表
 - (子どもの貧困、フードロス問題、生物多様性、女性活躍推進など)
- ・フードドライブ(当金庫や家庭の保存食をこども食堂に提供)

233-FY2022-19

地元商店街で子ども向け参加体験型イベントに協力

【原則1】【原則3】【原則4】【原則7】

当金庫は地域活性化事業として、平成22年度(2010年)から「シティ信金商店街PLUS事業」を立ち上げ、大阪府下の商店街と、地方公共団体・信用金庫・各種地域団体を連携し、空き店舗等を活用するなどして、地域の活性化に貢献してきました。

当イベントは商店街を舞台にして、小学生と高校生が自ら商店(都道府県の物産展)を開き、社会の仕組み、ヒト・モノ・カネの流れを理解するとともに、商店街の賑わいを創出する狙いで、2018年から開催され、今年で5年目の実施となりました。

令和4年度は、生野本通中央商店街では「子ども物産展」を4月2日・7月30日の2回と「いくの未来お店バトル」を11月12日に実施し、北田辺商店街では「こどもあきん Do」を7月23日に実施。各々企画及び準備から販売実施まで協力支援しました。

「子ども物産展」は、公募小学生と地元のプール学園高校生がチームとなり、各チームが選んだ特産品を販売し、商店街で店舗運営を行うイベントです。商売を通じてヒト・モノ・カネの流れなどを学ぶ機会を提供するとともに、商店街のにぎわいを創出することを目的とするイベントで、通算7回の開催となります。

「いくの未来お店バトル」は、地元小中一貫校が土曜授業として7年生全員と地元大阪ビジネスフロンティア高校高校生がチームとなり、各チームが選んだ地方の特産品と地元名産品を販売し、その利益を競うイベントで通算5回の開催。商売を通じてヒト・モノ・カネの流れなどを学ぶ機会を提供するとともに、商店街のにぎわいを創出することを目的としています。今回は、昨年より4店舗増え、北海道はじめi21道県在阪事務所と新たに当金

庫生野区内営業店より推薦の3事業者が協力し、学生も合計140人(40人増)が参加し、各店舗を運営、その利益を競いました。

「こどもあきんDO!」は、NPO法人北田辺プロジェクト実行委員会が「子ども・子育て」に特化した地域づくりのために行ったイベントで通算3回の開催。地元より公募小学生と城南女子短期大学学生がチームとなり、地方の特産品を販売し、その利益を競いました。当日は引き続き、当金庫阿倍野支店の職員は同会場で「コインおとし」などゲームコーナーを設け、イベントを盛り上げました。

なお、当金庫は、34道県の在阪事務所と連携しており、今年度のイベント実施において延べ32道県の在阪事務所に協力依頼と、生野区内3営業店と連携し、事前の作戦会議の実施から特産品の発注仕入れ、納品などの店舗運営に協力しました。

イベント当日は、模擬金融機関として出店した「信用金庫」で売上金の入金や両替を体験していただき、「商売の面白さ、お金の大切さ」を子どもたちに学んでもらいました。

【特徴】

事例1- ①「子ども物産展」

- (1)日 時 令和4年4月2日(土)10時～15時
- (2)場 所 生野本通中央商店街(大阪市生野区)
- (3)主 催 生野本通中央商店街振興組合
- (4)参加者 6名(応募の小学生4名、 プール学院高校1年生2名)
- (5)出店数 2店舗(山梨県・広島県)
- (6)当金庫職員参加 企業支援部1名

事例1- ②「子ども物産展」

- (1)日 時 令和4年7月30日(土)10時～15時
- (2)場 所 生野本通中央商店街(大阪市生野区)
- (3)主 催 生野本通中央商店街振興組合
- (4)参加者 10名(応募の小学生4名、 プール学院高校1年生6名)
- (5)出店数 3店舗(山形県・愛媛県・佐賀県)
- (6)当金庫職員参加 企業支援部1名

事例2 「こどもあきんDO!」

- (1)日 時 令和4年7月23日(土)10時～15時
- (2)場 所 北田辺商店街(大阪市東住吉区)
- (3)主 催 NPO法人北田辺プロジェクト実行委員会
- (4)参加者 35名(小学生30名、大学生5名)
- (5)出店数 5店舗(福島県・栃木県、山梨県、石川県、徳島県)。
- (6)当金庫職員参加 企業支援部1名、阿倍野支店7名

事例3 「いくの未来お店バトル」(子どもお店バトルよりタイトル変更)

- (1)日 時 令和4年11月12日(土)9時30分～12時30分
- (2)場 所 生野本通中央商店街(大阪市生野区)
- (3)主 催 生野本通中央商店街振興組合
- (4)参加者 140名 ・生野未来学園 7年生 78名、
・大阪ビジネスフロンティア高等学校 1年～3年生72名
- (5)出店数 24店舗(北海道、岩手県、新潟県、石川県、山梨県、長野県、栃木県、福井県、
群馬県、三重県、徳島県、高知県、香川県、島根県、広島県、岡山県、
佐賀県、大分県、宮崎県、熊本県、鹿児島県、生野区内3事業者)
- (6)当金庫職員参加 企業支援部5名

■ 沖縄県労働金庫

245-FY2022-01

「ろうきん・わしたシマづくり運動基金」の取り組み

【原則1】【原則2】【原則3】【原則 7】

- ・ NPO 団体等への支援として、自動機の取り引きに応じて寄付金額を拠出して、地域で活動する団体へ寄付することによりその活動を支援する「ろうきん・わしたシマづくり運動基金」を創設しました。2021 年度は 21 団体へ総額 130 万円を寄付しました。
- ・ また寄付金の一部については、「ろうきん こくみん共済 coop 働く仲間のゆめ・みらい基金」への支援にも充て取り組みを行っています。

245-FY2022-02

「ろうきん こくみん共済 coop 働く仲間のゆめ・みらい基金」の取り組み

【原則1】【原則2】【原則 4】【原則 5】【原則 7】

- ・ 「子どもの貧困」と、その背景にある「親(労働者)の貧困」問題の改善・解決に向け、2016 年 10 月に基金を設立し、(公財)沖縄県労働者福祉基金協会を事務局として運営を開始しています。「働く」につながる支援を基本方針とし、養育する子どもがいる親の就労・生活支援や、職業資格の受験費用等の捻出が困難な就学生(高校生等)に対する費用等を支援しています。より多くの人に取り組みを知っていただき全県的な運動をめざし、精力的に取り組みを進めています。

■ 九州労働金庫

249-FY2022-01

環境に配慮した取組み

【原則1】【原則 4】【原則6】

九州ろうきんでは、企業の社会的責任(CSR)を果たすために、「ろうきん 5R 運動」(Rokin の Refuse、Reduce、Reuse、Recycle)と称して、地球温暖化防止に向けた以下の取り組みを行っています。

- ① 二酸化炭素削減の一環として、室内の冷房温度を 28 度、暖房温度を 19 度に設定するとともに、照明の部分消灯や LED への切り替え等を行い、節電に努めています。
- ② 事務用品や機器の購入に際し、環境に配慮した製品を優先して購入する「グリーン購入」を実践しています。
- ③ タブレット端末を利用したペーパーレス会議システムを導入し、紙の資料の削減に努めています。

249-FY2022-02

ピンクリボン運動への支援取組み

【原則1】【原則 5】【原則 6】

九州ろうきんの ATMのご利用 1 回につき 1 円を当金庫が拠出し、ピンクリボン運動を推進している団体へ寄付を行う等、ピンクリボン運動を支援する取り組みを 2011 年 10 月より行っています。2021年度は、ピンクリボン運動を推進している九州の NPO 法人へ合計 240 万円の寄付を行ったほか、営業店ではご来店のお客さまへ広く周知することを目的に、窓口等に「ミニのぼり」を備え置き、「ウエットティッシュ」の配布等の啓発活動に取り組みました。

249-FY2022-03

子どもたちの成長を応援する活動・児童養護施設の子どもたちへの支援活動

【原則1】【原則2】【原則 4】【原則 5】【原則 7】

① 社会貢献預金「こども未来応援定期」の取り組み

「子どもたちを支援する団体」を応援することを目的として、2019 年 4 月より社会貢献預金「こども未来応援定期」の取り扱いを開始しました。社会貢献預金「こども未来応援定期」は、定期預金作成の店頭表示金利より当金庫所定の金利(0.1%)を引き下げた金利を適用金利とし、その金利の引き下げ幅分の利息相当額を「お客さまの寄付額」とみなして、九州 7 県の「子どもたちを支援する団体」へ寄付する預金です。2021 年度の預入件数は 4,199 件、預金残高は13億72百万円となり、当金庫拠出金を含めて総額 2,122,022 円を各県の児童養護施設協議会に寄付しました。

② 図書寄贈の取り組み

九州各県の児童養護施設に、子どもたちが希望する図書を寄贈しています。2011 年 10 月の取組開始から 2022 年 3 月末までに、合計 13,548 冊寄贈しました。また、図書寄贈に対して子どもたちからいただいたお礼のメッセージカードは、地域の皆さまとともに成長を見守ることを目的に、最寄りの営業店に掲示させていただいています。

③ メセナシートの取り組み

福岡市の PayPay ドームで開催されるソフトバンクホークス戦全試合に、「メセナシート」(ビュッフェ付観戦席)を 1 試合あたり 16 席設け、児童養護施設の子どもたちを招待しています。なお、2021 年シーズンは、38 の児童養護施設を対象に 539 人の子どもたちを招待しました。

249-FY2022-04

「エコ住宅」優遇制度の実施

【原則2】【原則 6】

九州ろうきんでは、オール電化システム等の環境に配慮したシステムを備えた「エコ住宅」を対象として、2016 年度より住宅ローンの金利を優遇する制度を設けており、この制度を通じて環境負荷の低減に取り組んでいます。

249-FY2022-05

NPO と協働した取組み

【原則1】【原則2】【原則 4】【原則 5】【原則 7】

① 九州ろうきん「NPO 助成」

NPO 法人・ボランティアグループ・市民活動団体等の活動を金融の側面から支援し、より良い社会づくりの一助となることを目指して NPO 助成制度を設けています。助成金は、お客さまからのボランティア預金「NPO パートナース」による寄付金と当金庫の拠出金を財源としており、2022 年 3 月末までに累計 1,269 団体へ 2 億 82 百万円を助成しました。

② ボランティア預金「NPO パートナース」

店頭金利から引下げた金利でお預入れいただき、金利引下げ相当額は、九州ろうきん「NPO 助成」の助成金の一部として活用させていただく定期預金です。なお、預金残高は、2022 年 3 月末現在で 2,269 件 5 億 77 百万円となっています。

③ NPO 自動寄付システム「NPO サポーターズ」

指定日に、お客さまの普通預金口座から、お客さまが応援する NPO 法人の口座に自動振替で寄付する制度です。1 回の寄付額は 100 円以上(100 円単位)で、寄付先は、市民への情報公開性や事業の社会性等を基準に当金庫が選定した NPO 法人の中からご選択いただけます。

④ NPO 法人および社会福祉法人等向け融資

NPO 法人や社会福祉法人等の運転資金や設備資金をご融資し、資金面でサポートしています。2022 年 3 月末で累計 84 件 15 億 63 百万円をご融資しました。また、2017 年度に商品性を見直し、返済期間の延長や法人格取得後、初めて到来する事業年度の決算が確定していなくても申込みいただける等、利便性を高めました。

⑤ NPO 振込手数料免除制度

NPO 法人の運営に欠かせない会費や寄付金集めを、九州ろうきんの本支店を利用して振り込みで行う場合に、年間 100 件を上限として手数料を免除する制度です。2022 年 3 月末で累計 33 団体にご利用いただいています。

249-FY2022-06

災害に関する取組み

【原則1】【原則3】【原則 5】【原則 7】

九州ろうきんでは、自然災害で被災された方に対して、生活や住宅の復旧・復興を目的に低利でご利用いただける「災害救援ローン」および「災害救援住宅ローン」の取り扱いを行っています。また、住宅ローンをはじめとした、返済計画の見直し等に関するご相談をお受けしています。

249-FY2022-07

社会的課題(奨学金問題)に関する取組み

【原則1】【原則 4】【原則 5】【原則 7】

九州ろうきんでは、勤労者およびその家族に対して、奨学金返済にかかわる相談および奨学金借換に必要な資金を融資することにより返済負担額等の軽減を図り、勤労者とその家族の生活の改善および向上に寄与することを目的とし

て、2018 年 4 月より労働者福祉南部ブロック協議会(九州各県の労働者福祉協議会)と連携した以下の取り組みを開始しました。

① 教育ローン(奨学金借換専用「つなぐ」)

奨学金の毎月返済額や返済期間の見直し等の多様なニーズに応えるために、通常の教育ローンよりも低利な奨学金借換専用ローン「つなぐ」の取り扱いを 2018 年 4 月より開始し、2022 年 3 月末で累計 411 件 9 億 34 百万円をご融資しました。

② 奨学金返済困窮者に対する相談窓口の設置

奨学金返済にかかわるご相談に対応するため、各営業店および労働者福祉協議会のライフサポートセンターに相談窓口を設置しました。なお、ご相談状況に応じて、セーフティーネット(弁護士や司法書士)の紹介等も行っています。

■ 新潟県労働金庫

250-FY2022-01

多重債務防止に向けた取組み

【原則1】【原則3】【原則5】

ろうきんでは、金融に関わるトラブルを未然に防止するため、次の啓発活動に取り組んでいるほか、多重債務やマネートラブルを抱えているお客様のお困りごとを解決できるよう専門家と連携した相談活動を推進しています。

- 会員組合員などを対象に、多重債務事例をもとに作成した小冊子「マネートラブルにかつ！」を活用した学習会を開催し、会員との協働による生活向上対策に取り組んでいます。
- 高校生を対象に、クレジットの仕組みや悪徳商法の手口、インターネット被害の事例紹介による出前授業を開催し、2022年4月に施行された「成年年齢の18歳への引き下げ」も踏まえて、これから社会に巣立っていく高校生にとって身近に起こりうる「マネートラブル」について知ってもらう活動に取り組んでいます。

250-FY2022-02

環境への負荷に配慮した取組み

【原則1】【原則4】【原則6】

SDGsの「環境に配慮した取組み」として、地球温暖化防止に向けた省エネルギーの取組みを実施しています。具体的には、冷暖房の適正温度設定や夏季軽装、エコドライブの実践、グリーン商品の購入など、省エネ・省資源につとめ、環境負担軽減をはかっています。

また、「にいがた緑の百年物語」(緑の募金)に協賛しています。

250-FY2022-03

すべての人にやさしい店舗づくり

【原則1】

お身体の不自由な方やご高齢の方など、すべての人に安心してご来店・ご利用いただけるよう、次のさまざまな取組みを実施しています。

- 職員による代筆・代読など、各種手続きをお手伝いしています。
- 視覚に障がいがある方が窓口での振込手続きを希望された場合は、ATM利用時と同額の振込手数料でお手続きいただけます。
- ATMにはハンドセット(受話器)による音声案内機能を導入しています。
- 点字ブロックを全営業店に敷設し、ご来店いただきやすい環境を整えています。
- 点字による残高通知および預金取引明細を発行しています。
- 車椅子を全営業店に配備しています。
- 車椅子の方もご来店いただきやすいよう、スロープや手すりなどを設置しています。
- 車椅子のままご記入いただける筆記台を設置しています。
- 「耳マーク表示板」を全営業店に設置し、聴覚に障がいがある方から筆談等で用件を承ります。また、ご希望により、聴覚に障がいがある方の通帳に「耳マークシール」を貼付しています。
- 聴覚に障がいがある方や、声を出しづらい方のための電子メモパッドを全営業店に配備しています。

●障がいがある方の対応について、職員研修を実施しています。

また、ろうきんでは、福祉金融機関としての活動を充実させるため、職員に金融以外の専門知識の習得を促進しており、全営業店に「認知症サポーター養成講座」を受講した職員（認知症サポーター）を配置しています。

※認知症サポーターとは、認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の方やその家族に対して、できる範囲で手助けをする人のことであり、全国の自治体等が中心となって養成講座を実施しています。

250-FY2022-04

「いじめ見逃しゼロ県民運動」への協力

【原則3】【原則5】

「深めよう 絆 にいがた県民会議」が実施する「いじめ見逃しゼロ県民運動」は、学校・家庭・地域社会が連携し、児童生徒の社会性を育てると同時に、「いじめ見逃しゼロ」の意識を共有し、それぞれの立場で児童生徒に関わることを目的としています。

ろうきんは、「県民サポーター募集」活動をはじめ、全営業店にポスター等を掲示し、お客様へ「県民サポーター」登録の呼び掛けをするなど各種取組みに協力しています。

250-FY2022-05

ろうきん森の学校

【原則4】

「ろうきん森の学校」は、労働金庫連合会が創立 50 周年記念社会貢献活動として、豊かな森の再生と環境問題に取り組む人材育成をめざし、「森を育む」「人を育む」「森で遊ぶ」を活動の柱として、2005 年 10 月に富士山、福島、広島 の 3 地区で開校しました。2015 年からは新潟・岐阜を加えた全国 5 カ所に拡大して各地区の NPO の活動に参加し、地域と連携した活動を行っています。

全国的な ろうきん森の学校の活動は「国連生物多様性の 10 年日本委員会」の連携事業として認定されました。

新潟地区は、上越市「くわどり市民の森」を拠点として活動している「NPO 法人かみえちご山里ファン倶楽部」と連携し、地域とのつながりを深め、自然環境保護の活動を支援しています。

また、SDGs の取組みとして、環境やパートナーシップへの理解を深めるための職員研修を現地にて開催しています。

■ 東北労働金庫

253-FY2022-01

「社会貢献目的預金(ろうきんふれ愛預金)」

【原則2】

2012 年 10 月より、地域の社会福祉施設等の支援を目的とし「社会貢献目的預金(ろうきんふれ愛預金)」の取り扱いを開始しました。

お客様からお預入れいただいた定期預金(預入期間1年)店頭表示金利と適用金利(店頭表示金利から30%を減じた金利)の差による利息相当額に、当金庫からの拠出金等を加算し、東北 6 県内の福祉団体、福祉施設等へ 2013 年度から寄付を行っております。※店頭表示金利の見直し状況により、寄付が発生しない(店頭表示金利と適用金利の差が発生しない)場合があります。その場合、ふれ愛預金の残高に店頭表示金利の30%を乗じた額を当金庫が拠出し寄付いたします。

10 月に各県本部に設置している「寄付先選定委員会」で寄付先を決定し、11 月～12 月に寄付を行っております。

【特徴】

2021 年度は、44 団体に対して総額 362 万円の寄付金贈呈を行いました。

253-FY2022-02

東北ろうきん復興支援・社会貢献団体助成金制度

【原則3】

2012 年 10 月より、「東北ろうきん復興支援助成金制度」を創設し、2012 年度より助成を行っております。「東日本大震災からの復興・被災者への支援」および「当金庫が定める社会貢献活動」に取り組む NPO やボランティア団体の活動支援を目的として実施しています。

12 月に助成先を選考し、翌年 1 月に助成金を交付しております。

【特徴】

2021 年度は、42 団体からの応募を受け、選考の結果、10 団体に対して 1 団体あたり 30 万円の助成金を交付し活動支援を行いました。

253-FY2022-03

環境負担軽減の取り組み「節電、LED 照明の導入」「夏季軽装」

【原則 6】

「節電、LED 照明の導入」

営業店の一部および本部ビルオフィス内に LED 照明を導入し、省エネルギー化に取り組んでおります。

「夏季軽装」

2022 年 5 月 1 日～2022 年 9 月 30 日までの期間、夏季軽装を実施しています。期間中、冷房温度を 28 度(営業店 26 度)に設定し、男子職員は原則、ノー上着・ノーネクタイ、女子職員はリボンタイを非着用としています。

253-FY2022-04

自然保護等の社会貢献活動「ろうきん森の学校」

【原則 4】

労働金庫連合会の 50 周年記念事業として、里山再生を通じた人づくりをテーマに全国 5 箇所で開催する

「森の学校」で、福島県いわき市「湯の岳の山荘」が選ばれ、NPO 法人「いわきの森に親しむ会」との協働により、自然観察会、間伐、炭焼き等の自然体験を通じ、環境普及を図っています。

【特徴】

「ろうきん森の学校」は 2005 年よりスタートし、森での楽しい活動を通じ、多くの人が「森に興味を持ち」「森を大切にする」気持ちを育むことで個人のライフスタイルを見直すきっかけを作る活動で、今般「国連生物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J)」が推奨する連携事業に認定されました。2015 年度から第Ⅱ期がスタートし、新たに 2 地区を加え、全国 5 地区で次の 3 つを柱に活動しています。

- ① 森を育む(=植樹・間伐・下草刈り等の森林整備作業)
- ② 人を育む(=森林作業・自然体験のリーダー育成)
- ③ 森で遊ぶ(=里山での自然体験プログラム開発および実施)

2021 年度は延べ 6,854 名の参加をいただきました。

253-FY2022-05

自然保護等の社会貢献活動「ふれ愛の森ロッキー」

【原則 6】

森林資源の維持増進と自然環境の保全を図るとともに、会員をはじめ市民の皆様の自然とのふれあいの場、各種レクリエーションの場として活用いただくことを目的に、1998 年に西藏王にオープンしております。森林内には、スギ、ブナ、ナラ、カエデ、クリ、サクラ等、約 32,000 本が生い茂り、自然を満喫しながら散策できる遊歩道があります。

253-FY2022-06

東北 6 県生活協同組合連合会との「緊急災害対策等に係る相互連携協定」の締結

【原則3】

当金庫と青森県生活協同組合連合会・岩手県生活協同組合連合会・宮城県生活協同組合連合会・秋田県生活協同組合連合会・山形県生活協同組合連合会・福島県生活協同組合連合会は、大規模自然災害発生時における地域への支援活動について、協同組合間の相互連携を図り、復旧・復興への取組みをすすめるため、協定を締結しています。

253-FY2022-07

ESG 投資への取り組み

【原則 1】【原則6】

有価証券の運用において、社会貢献と SDGs 目標達成を目的とした ESG 投資を行っています。2022 年度はグリーン関連投資を中心としたグリーンボンド・トランジションボンド・サステナビリティボンド等の ESG 債に投資しています。

■ 第一勧業信用組合

285-FY2022-01

かんしん子供応援定期預金による小中学校への教材寄付

【原則3】【原則4】【原則7】

- ・ 2020 年度より「かんしん子供定期預金」の取り扱いを開始。多くの組合員のご賛同をいただくことができ、地域の小中学校へ教育資材(書籍や体育用具)の寄付をしています。この取り組みを継続していくことで、地域の小中学校に通う子供たちを応援してまいります。

【特徴】

寄付をした書籍や体育用具は全て当組合のお客さまから購入。

	2021年度(実績値)	2025年度(数値目標)	2030年度(数値目標)
教育資材の寄付した学校数(延べ)	25 校	125 校	250 校

285-FY2022-02

コロナ禍における中小企業支援(資金繰り支援、本業支援、ビジネスモデル変革支援)

【原則1】【原則2】【原則3】【原則6】

- ・ コロナ禍による経済低迷の中で、金融面で取り残されやすい中小零細企業の、資金繰り支援、本業支援、ビジネスモデル変革支援に注力いたします。

組合員の皆さまが、アフターコロナ・ポストコロナに向けた事業再構築や、昨今の経営を取り巻く環境変化に対応するため、「DX 対応」「環境問題対応」「人事戦略革新」の 3 つの PT(プロジェクトチーム)を立ち上げました。

【特徴】

組合員であるお客さまが、環境変化や世の中の要請に応じながら業績を改善できる仕組み、ノウハウを研究し、お客さまを支援してまいります。営業店と3PT が一体となって、具体的な相談対応や提案、情報提供をしていくことで、事業を営む組合員の皆さまの持続的発展に貢献してまいります。

285-FY2022-03

女性活躍推進の取組

【原則4】【原則6】【原則7】

- ・ 「ジェンダー平等を実現しよう」の実現を目指し、女性が管理者として活躍出来る働きがいある職場環境の整備を進め、管理職に占める女性割合を 5 年後の 2026 年には、30%以上に目標設定して推進してまいります。

【特徴】

	2021年度(実績値)	2025年度(数値目標)	2030年度(数値目標)
女性役席比率	25%	28%	35%以上

285-FY2022-04

在日外国人の資金調達支援事業

【原則1】【原則2】【原則3】

-
- ・コミュニティ・社会で取り残されがちな在日外国人の方々を支援するため、東京都が実施する「在日外国人の資金調達支援事業」の取扱い金融機関に応募・選定されました。東京都、統括支援機関、他の取扱金融機関共に、お客さまへのサポートしてまいります。

【特徴】

- ・ 永住権を持たない在日外国人の方の資金調達にも東京都と連携することで、支援の手を広げました。

285-FY2022-05

ダイバーシティ・インクルージョン

【原則4】【原則6】【原則7】

- ・ 様々な価値観や個性を認め合い、助け合い、ともに成長していくことで、他者への「思いやり」のある職員を育成いたします。

【特徴】

- ・ 障がい者雇用の促進

2020 年度から障がい者を毎年継続的に採用することで、障がい者雇用率は 2021 年度実績で 1.5%になりました。今後も継続的に採用し 2030 年度までに 2.5%の達成を目指します。また、障がい理解の促進・啓発を継続的に行い、様々な価値観や個性を認め合い、助け合い、ともに成長していくことで、他者への「思いやり」のある職員を育成してまいります。

- ・ 認知者サポーターを養成し全店に配置(296 名養成)

2018 年度より認知症サポーターを養成し、2022 年 9 月現在で 296 名を養成。全店に認知症サポーターを配置し、安心して住み続けられるまちづくりに貢献します。

■ 浜松いわた信用金庫

287-FY2022-01

ユニバーサルバリュー宣言(SDGs 行動宣言)の公表

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則5】【原則6】【原則7】

2019 年 1 月、浜松いわた信用金庫は、国際連合が提唱する国際社会全体の目標である SDGs の達成に貢献することを経営理念の根幹に位置付け、広く社会課題の解決に取り組むとともに、自らも持続的成長を目指していくことを宣言しました。

1. 人を大切にする

働き方改革、ワークライフバランス向上、ダイバーシティ推進等、全ての人が個性と能力を十分に発揮できる働きがいのある職場づくりに努めます。

また、金融仲介機能の発揮を通じて人権保護、社会的弱者支援等の社会的課題の解決に貢献します。

2. 地域を大切にする

地域産業成長へのコミットメント、お取引先企業の付加価値向上、お客様の豊かな生活の実現等、地域の魅力や価値を創出することで、地域・お取引先・当金庫それぞれの持続的な成長を目指します。

また、地域の環境保全や災害対策強化に取り組むことで、住み続けられる街づくりに貢献します。

3. 地域への取組みを通じて世界の課題と向き合う

金融仲介機能の発揮を通じて、地球温暖化防止、生物多様性保全等、世界的な課題の解決に貢献するとともに、地域における具体的な取組みを進めます。

4. 取組みの裾野を広げる

お取引先や金庫役職員における SDGs の認知度・理解度の向上に努めるとともに、お取引先の SDGs への取組みを支援することを通じて、取組みの裾野の拡大を目指します。

287-FY2022-02

事業者の SDGs への取組みを「見える化」する評価サービスの提供

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則5】【原則6】【原則7】

当金庫と SDGs 包括連携協定締結先である三井住友海上火災保険(株)の外部知見を活用し、事業者のブランディング向上、SDGs への取組みを 5 つのカテゴリー、74 のヒアリング項目より数値化し、強み・弱み・改善項目を「フィードバックシート」として顧客還元を行い、「見える化」する「浜松いわた信用金庫 SDGs 評価サービス」の取扱いを 2021 年 8 月より開始。

【特徴】

本件評価サービスについては、「浜松いわた信用金庫 SDGs 私募債」(※2021 年 4 月取扱開始)の利用事業者が無償にて利用が可能。営業店においては、事業者が取組むべき SDGs 課題等を顧客と共有、事業性評価の実効性向上、様々なソリューションメニューを提供することによる「伴走型支援活動」にも繋がっている。

287-FY2022-03

事業者の女性活躍推進

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則5】【原則6】【原則7】

地域企業の SDGs の認知・普及、人材確保、企業ブランディングの向上を目的として「SDGs 登録制度～働く女性

を応援するに！～」の登録事業者募集を2021年6月より開始。

【特徴】

当金庫と東京海上日動火災保険(株)との連携による独自の登録制度。SDGs 達成(女性の活躍推進等)に向けて取組む事業者を応援する制度であり、女性の活躍推進に関する取組みを宣言することが登録要件となっている。企業ブランディング向上、ESG 要素を踏まえた社会課題への対応、東京海上日動火災保険(株)より健康経営認定取得支援、BCP 策定支援他各種ソリューションメニューの提供等が可能であり、顧客の抱える課題解決支援へ取組んでいる。

287-FY2022-04

幼児・児童を対象とした SDGs 啓発ツールの作成

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則5】【原則7】

当金庫においては、これまでに小学校高学年児童から中学生生徒向けの SDGs 啓発ツール「SDGs すごく」「エシカル消費教材」を作成、SDGs の普及・啓発を実施してきた。2022年1月、幼稚園児・小学校低学年児童を対象とした SDGs 啓発ツール「SDGs まっぷ」を作成した。

【特徴】

SDGs の啓発対象者を幼稚園児・小学校低学年児童とする啓発ツールを企画・作成。この「SDGs まっぷ」は、児童・生徒が居住する地域(静岡県西部地区)をメインに、17の目標と地域の産業・特色等を関連付け、SDGs を身近なもの、自分事として感じてもらえる様デザイン。17の目標はシールタイプで数回の使用が可能であり、ご家族の方と一緒に遊ぶ(学ぶ)ことを念頭に、SDGs 普及・啓発の裾野が更に広がることを目的に作成したもの。

287-FY2022-05

浜松市とのウクライナ避難民支援推進に関する協定締結

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則5】【原則6】【原則7】

当金庫は、ウクライナへの軍事進攻に際し、SDGs を通じた地域社会へ貢献できることを検討、2022年8月16日、浜松市と「浜松市におけるウクライナ避難民支援推進に関する協定書」を締結、行政と連携したウクライナ避難民への人道支援に取り組む事を表明。

【特徴】

避難民への人道支援(浜松市が行う生活一時金支給)に対する寄付(上限500万円)を行うが、金銭的支援のみならず、浜松市と連携し避難民への就労支援を当金庫のネットワークを活用して行っていく事も検討。就労支援に取り組むことで、当金庫の取引先への伴走支援により顕在化している課題解決(事業者の人材確保等)にも貢献できる。また、当金庫(民間企業)が、避難民支援を表明することで、他の民間企業等が避難民支援への意識が高まり、支援の輪が広がることが期待される。

287-FY2022-06

事業者の SDGs 宣言書作成支援ツールの提供

【原則1】【原則2】【原則3】【原則4】【原則5】【原則6】【原則7】【他】

当金庫と SDGs 包括連携協定締結先である三井住友海上火災(株)の外部知見を活用、事業者への SDGs 取組状況を5つのカテゴリー・65のチェック項目をヒアリング、強みと弱みを評価し、事業者の SDGs 宣言書の作成支援のソリューションメニュー提供を2022年6月より開始。

【特徴】

事業者の SDGs 取組状況をヒアリングし、強みと弱みを評価する「SDGs 評価制度」と、SDGs 評価により弱みと評価された課題に対して当金庫ソリューションメニューを提供する「SDGs 課題解決支援」の2つにより、事業者の SDGs 取組支援の促進を図る。また、取引先に対する SDGs 及び環境経営への啓発、接点強化、事業性評価向上等、取引先伴走支援への取組み強化に繋がると共に、作成した SDGs宣言書を事業者の SDGs 取組状況の PR 等、広報・ブランディング向上にも活用頂いている。

■ 鹿児島相互信用金庫

293-FY2022-01

SDGs へのコミットメント

【原則1】

2018 年 10 月、これまで、地域のための協同組織金融機関として取組んできた実績と経験をもとに、更なる地域の社会課題、経済課題、環境課題の解決に取組み、「持続可能な地域社会の実現に貢献すること」及び「地域の各主体とのパートナーシップの下、SDGs の普及に努めること」を目的として「そうしん SDGs 宣言」を表明しました。

【特徴】

SDGs の取組みに関する宣言を表明したのは、九州の金融機関を含む企業体として、また全国の信用金庫でも初の取組みとなりました。

293-FY2022-02

持続可能な地域社会に貢献する中小企業の育成・支援

【原則3】【原則4】【原則5】

中小企業の SDGs 達成に向けた優れた取組みの表彰を通じて、更なる取組みの支援と県内中小企業への普及促進を図ることを目的として、「そうしん SDGs アワード」を開催しています。

【特徴】

一般に公募を行うのではなく、当金庫営業店が自店取引先の中から SDGs 達成に向けた経営・取組みを行う企業等を推薦することで、当金庫職員と取引先の SDGs に関する対話を促進する仕組みとしています。また、当金庫取引先 1,600 社で構成される組織会の総会場で表彰式を行うことで、受賞企業の優れた取組みを、これから SDGs に取り組もうとする中小企業に広く周知するものです。

293-FY2022-03

持続可能な地域社会に貢献する事業者の創業・成長支援

【原則2】

鹿児島県にとって重要である一方で、廃業率が高いという課題がある「飲食業」の創業や成長を支援するため、2019 年 9 月から飲食業に特化した創業支援プログラム「そうしん食の起業家養成アカデミー」を実施しています。鹿児島県内の各専門家による講義のほか、創業前のフードトラックによるトライアルなど、研修と実践の場の提供により事業者の創業・成長を支援します。

293-FY2022-04

環境配慮や福祉に配慮した商品の提供

【原則2】

エコ・カーライフプラン、エコ・ローン、エコ・リフォームプランなどのローンや、「がんから守る」定期預金、子育て支援積金（ハローキッズ元気積金）など、環境や福祉に配慮した商品の提供を行っています。また、2019 年 11 月には、SDGs の趣旨に基づき、環境保全や社会課題の解決に繋がる事業を行う事業者向けの専用商品として「SDGs アシストローン」の提供を開始しています。また、2021 年 4 月からは取引先の資金調達と地域社会への貢献をサポートする「そうしん SDGs 私募債」の取扱いを開始しました。

293-FY2022-05

自治体と連携した地域課題の解決に向けた商品・サービスの提供

【原則1】【原則 7】

人口減少・少子高齢化問題(長島町ぶり奨学プログラム、大崎町リサイクル未来創生奨学パッケージ、南大隅町ネッピー・みさきちゃん奨学ローン)や空き家問題(長島大陸空き家活用ローン、長島大陸空き家活用つなぎローン、西之表市移住・定住促進ローン)など、自治体と連携して地域課題の解決に取り組むとともに、商品・サービスの提供を行っています。

【特徴】

自治体と連携して地域課題を解決するため、自治体が専用に制度設計した補助金や利子補給制度等の活用を前提に金融機関の「ファイナンス」の仕組みをアレンジして提供しています。

また、金融機関の保有するネットワーク力を活かし、自治体だけではなく、大学、企業など、様々なステークホルダーとのパートナーシップも意識した地域課題解決に資する活動を行っています。

293-FY2022-06

環境・福祉に配慮した店舗づくり・設備の導入

【原則 6】

太陽光発電や地熱空調システムなどの環境への配慮やバリアフリーや多目的トイレなど高齢者やお子様連れにも優しい店舗づくりを順次行っています。

2020 年 7 月には環境にやさしい超小型 EV「コムス」を導入し、営業活動中の環境負荷低減に努めるとともに、同車両に SDGs ロゴを表示することで鹿児島県内における SDGs の普及促進を図っています。

293-FY2022-07

持続可能な地域社会に貢献するための役職員の意識向上

【原則 4】【原則7】

2019 年 4 月、役職員の SDGs への理解促進、意識向上を図ることを目的として、全役職員が達成を目指す「My SDGs 宣言」を行いました。また、薩摩川内市とのパートナーシップで実現した「竹 SDGs バッジ」を着用するとともに、役職員の名刺に SDGs ロゴをあしらうことで、お客様への挨拶時に SDGs に関するコミュニケーションの機会を確保しています。

293-FY2022-08

地域の各主体とのパートナーシップによる SDGs の普及促進活動

【原則 1】【原則4】【原則 5】【原則7】

自治体とのパートナーシップの下で行う SDGs 普及活動としては、錦江町立大根占小学校において「SDGs の視点を取り入れた小学生向けワークショップ」を実施したほか、薩摩川内市と連携し、鹿児島県の地域資源でもあり地域課題でもある「竹」を活用した「竹 SDGs バッジ」を製作。薩摩川内市及び同市企業等において着用しながら普及活動に取り組んでいます。

また企業とのパートナーシップによる普及活動として、当金庫取引先で組織する外郭団体と当金庫で「SDGs 共同宣言」を行っています。さらに、各店の取引先とも個別に「SDGs 共同宣言」を行い、共同宣言した活動を店頭に掲示して宣言、積極的に情報開示することで、取引先に加え一般のお客様にも SDGs の普及を図っています。

【特徴】

地域のステークホルダーとのパートナーシップによる普及活動においては、信用金庫が保有している「地域におけるネットワーク」というリソースを活用し、自治体や企業と連携して取組んでいます。

293-FY2022-09

自治体・民間企業と連携した循環型地域社会構築への取組み

【原則 1】【原則 3】【原則 5】【原則 6】

鹿児島県大崎町、当金庫、南日本放送、そらのまち、合作の 5 者連携により、「一般社団法人大崎町 SDGs 推進協議会」を設立しました。現在は、そおりサイクルセンターが加わり 6 者での連携となっています。

2022 年 6 月には、同協議会と当金庫が共催し「GREEN KAGOSHIMA in 大隅」を開催しました。これは地域企業と環境に配慮した企業活動や事業を考える、学びのプログラムを提供する取組みです。環境ビジネスの専門家講師による講演を初回に聴いていただき、最終回では実践したいグリーンな取り組みを宣言する全 4 回のプログラム(毎週開催)で企画しました。「環境や社会にとって良い」ことを表す「グリーン」な取り組みを、1 社でするのではなく、鹿児島県内の様々な企業と連携をしながら進めることを目的とし、第 1 弾は大崎町 SDGs 推進協議会が活動拠点とする大隅地域から仲間を作り、共に進めていきたいとの思いから、同地域の当金庫取引先事業者を中心に参加を呼びかけ、14 社 17 名に参加していただきました。参加事業者は、現状の企業課題の共有と言語化を図り、言語化を通じて、グリーンビジネスにつながる事業構想の種を育てるワークを行いました。

【特徴】

同協議会では、それぞれの強みを活用し、取組む 3 つの柱として① 研究開発、② 人材育成、③ 情報発信を掲げ、活動を行っております。

■ 京都中央信用金庫

296-FY2022-01

サステナビリティ方針の策定

【原則1】

「環境方針」・「SDGs 方針」・「環境・社会に配慮した投融資方針」を包含した「サステナビリティ方針」の策定、「サステナビリティ委員会」の設置により、持続可能な脱炭素社会と企業・個人の成長発展を目指し、社会課題等に対して金庫全体で取り組み、地域社会の持続可能性の向上に貢献します。

296-FY2022-02

気候変動問題への取り組み

【原則1】

2022年4月にTCFD提言への賛同を表明、気候関連情報の開示を行いました。今後は更なる取り組みの深化と情報開示の充実を図ります。

296-FY2022-03

サステナビリティ関連商品・サービスの提供

【原則2】

融資商品として「中信スーパーエコローン／再生可能エネルギー固定価格買取制度を利用した売電や省エネ設備導入資金」、「中信 SDGs サポートローン／SDGs 取組資金」、「無担保住宅プラン／NEW ラッキーすまいる」のエコ関連設備リフォーム資金融資利率優遇のほか、「京都中信 SDGs 私募債」の取扱い、サービスとして「京都中信 SDGs 宣言サポート」、e-dash(株)提携「GHG 排出量算定・可視化クラウドサービス」の提供、投資信託として「損保ジャパン・グリーン・オープン(愛称:ぶなの森)／環境対策に取組むエコファンド」、「しんきん SRI ファンド／企業の社会的責任に着目し投資するファンド」等を取扱っています。

296-FY2022-04

環境配慮型店舗

【原則6】

カーボンニュートラルに向けて、新設・建替店舗は、太陽光発電・全館 LED 照明・照度センサー・人感センサー・高効率空調・Low-E ガラス、屋上緑化 等を導入し、「環境配慮型店舗」として展開しています。

296-FY2022-05

省エネルギー・省資源化・デジタル化の推進

【原則6】

帳票類・申請業務等のデジタル化によるペーパーレス促進、紙資源の再資源化、コピー用紙削減目標設定による使用量削減、用度品一元管理による廃棄量削減、3R運動による省資源化、EV車導入やクールビズ・ウォームビズ、ライトダウン・リフレッシュ Day 等による省エネ推進等を通して、エコオフィスづくりを進め、地球環境保護に努めています。

296-FY2022-06

脱プラスチックへの取り組み

【原則6】

マイクロプラスチックによる海洋汚染防止、木材の地産地消への貢献を目的として、役職員のネームプレート
を“プラスチック製”から“地元木材／みやこ杣木製”へ変更。また、プラスチック製手提げ袋の廃止、「紙ストロー
類セット」の粗品採用等、環境保全に寄与する取組みを進めています。

296-FY2022-07

「eco 検定」・「SDGs・ESG 金融検定」受験推奨、eco 実践

【原則4】

環境問題への理解と対応を高める一助として「eco 検定」・「SDGs・ESG 金融検定」の受験を推奨してい
ます。

296-FY2022-08

地域清掃活動

【原則5】

「ゴミゼロの日／全店一斉ボランティア清掃」の実施や、「琵琶湖一斉清掃」「びわ湖の日」「環境美化の日」等への参
加を通じて、一人ひとりが環境やゴミ問題に関心を持ち、地球にやさしい街づくりを考え、行動する機会としてい
ます。

296-FY2022-09

「事業適応計画(カーボンニュートラル投資促進税制)」の認定取得、顧客の活用支援

【原則3】

脱炭素化への「事業適応計画」が、カーボンニュートラルの実現に向けた取組みとして金融庁の認定を取得し
ました。脱炭素化を検討されているお客様にもご案内を進め、地域一体での脱炭素化に取り組んでいます。

■ 観音寺信用金庫

310-FY2022-01

ご当地鍋の開発による地方創生への取組み

【原則 5】

2019年8月に「地域と一体となり、この土地の文化をひとりでも多くの皆さんとシェアしたい」との理念のもと、「どっかん!! と観音寺を盛り上げ隊」(以下どっかんおんじ)を発足させました。観音寺市関連の4団体と第1次、第2次、第3次産業である農業、製造業(食品加工、印刷等)、卸売業、飲食店の地元事業者など40先がコラボして地元食材を活用した「天空の七宝シリーズ」を開発販売展開しています。伊吹イリコをベースに香川県の白みそ仕立てのお出汁に、ロメインレタス、練り物ボール(えび天、いりこ、あおさ)、天空のえびせんべい、豆腐・お揚げ、豚肉・鶏肉、長ネギ、しめじ・えのき、といった観音寺産7つの具材を入れて煮込むご当地お鍋「天空の七宝鍋」を第一弾リリースしています。地元観音寺市は瀬戸内の海の幸に恵まれ、伊吹イリコのほか、新鮮な魚やエビを原料とした竹輪・かまぼこを製造する業者も多く、さぬきうどんとの相性は抜群です。地元食文化の可能性を存分に引き出した観音寺発ブランド鍋として定着、発展させています。



【特徴】

コロナ禍でイベント活動等が大幅に制限される中でも地元観音寺の活性化のため、精力的に“どっかんおんじ”プロジェクトを進行しています。2021年6月にはインスタスポット「天空の鳥居」に自動販売機を設置(観光客向け高屋神社授与品(御朱印、お守り、おみくじ、絵馬)の頒布及び地元産品の販売)、2021年8月にはコロナ退散シークレット花火を実施しました。また2021年11月21日に《第3回おいしいかんおんじ物産展》、2022年7月16日に《第4回おいしいかんおんじ物産展》、2022年11月20日に《第5回おいしいかんおんじ物産展》と継続的に開催し、一過性ではなく持続的な地元事業者支援に取り組んでいます。また、《第5回おいしいかんおんじ物産展》では約5000人を集客し、更に事業DX推進の一環で“どっかんおんじ”HPのリニューアル、Twitter、Instagramでの情報発信を行っています。



310-FY2022-02

地域カーボンニュートラルへの取組み

【原則2】

2021年4月発足の香川県地域 ESG 脱炭素設備投資促進コンソーシアムに参画して、香川県庁、香川県環境公社、エコエネ技術士ネット、と連携し、地元事業者の脱炭素経営を支援する体制整備に努めています。カーボンニュートラルの意識を高めるために、専門家派遣による自社のCO₂排出量の算出や、取組方法のコンサルティングを実施しています。2021年度は4社5事業所のコンサルティングを完了し、2022年度は現在までに5社をコンサルティングしている状況です。



【特徴】

香川県域をひとつの「面」として捉えて、地域ぐるみの温室効果ガス削減を推進していくため、四国の信用金庫で初の環境省、資源エネルギー庁のESG・省エネ設備融資利子補給、両制度の指定金融機関の認定を取得し、金庫独自で「かんしんSDGs特別融資制度」を創設、地元事業会社の脱炭素化に金融面で後押しできる体制を早期に整備しています。また中小零細企業の簡易なCO₂排出量算定支援を目的に、(株)バックキャストテクノロジー総合研究所(東京都)と提携し、当社クラウド「環進帳」による企業会計情報にもとづくCO₂排出量算定サービスを2022年7月より開始しました。



310-FY2022-03

SDGs支援への取組み

【原則4】【原則7】

2021年6月より地元事業会社のSDGs経営の啓発を目的に、四国経済産業局、損害保険会社と連携し、SDGs経営勉強会(ウェブセミナー)を毎月継続的に行っています。当金庫が参加募集を行い、勉強会の講師を大手損害保険会社が担当、勉強会後に四国経済産業局が参加企業へのヒアリングを実施、その後のフォローアップ状況を三者間で確認しています。

また2021年10月より、地元事業会社向けに、もう一段踏み込んだ「SDGs行動宣言」支援サービスを展開しています。「SDGs経営分析」、「記念盾の贈呈」、「SDGs推進計画策定」までのハンズオン支援を実施しています。また記念盾の贈呈には、当金庫理事長が直接、支援企業様に訪問し対応しています。



【特徴】

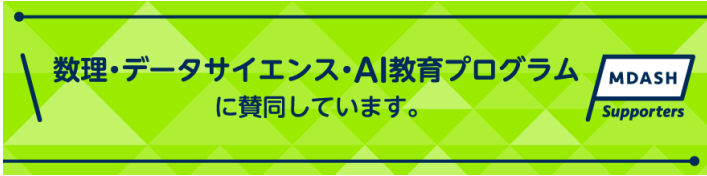
当金庫では地域でのSDGs支援を念頭に、職員向けSDGs勉強会を実施しており組織的なSDGsリテラシーの向上に努めています。まずは現場の自金庫職員各自が自発的に SDGs の根本を理解していく流れをつくり、SDGsを伴走支援の共通認識として、また顧客の事業性を正当に評価ができる、いわゆる非財務の「目利き力」磨き上げを、金融マンの最も重要なタスクとして位置づけています。

310-FY2022-04

ITデジタル化支援への取組み

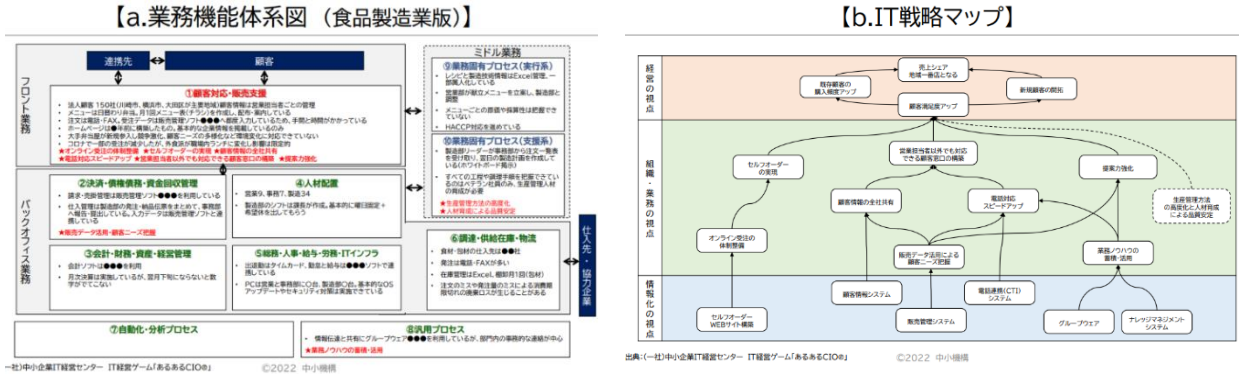
【原則1】

当金庫では、数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な能力を修得した人材が今後より多く輩出されること、AI人材の活躍の場が広がることを支援するために、数理・データサイエンス・AI教育プログラムサポーター“MDASH SUPPORTER”として大学・高等専門学校での数理・データサイエンス・AI教育プログラムの認定制度に対し賛同を表明しています。



また中小企業基盤整備機構四国本部と連携し、地元事業会社向け「IT経営簡易診断」を推進しています。中小零細企業では「デジタル化と言っても何から始めたら良いのか全く分からない」と話す経営者は多く、地元事業会社のデジタル化は遅れています。初期段階での難しくないデジタル化支援を念頭にハンズオン支援を実施、業務機能体系図、IT戦略マップを作成し、ITデジタル化転換に向けたロードマップを提供しています。

【特徴】



【c.業務課題とIT利活用の概要計画】

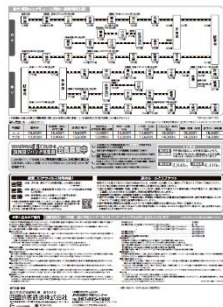
経営課題	業務課題	IT活用テーマ	1年目 前期	1年目 後期	2年目 前期	2年目 後期以降
既存顧客の 購入履歴アップ	オンライン受注の体制整備 セルフオーダーの実現	セルフオーダーWEBサイト構築	業務 分析	試行/ 選定	導入/ 運用	
新規顧客の開拓	販売データの活用による顧客 ニーズ把握	顧客情報・販売管理システム構築 (2つの機能を持つ製品 検討)			試行/ 選定	導入/ 運用
顧客満足度アップ	顧客情報の全社共有 業務ノウハウの蓄積・活用 提案力強化	ナレッジマネジメントシステム構築 (グループウェア製品 検討)		業務 分析	試行/ 選定	導入/ 運用
	電話対応スピードアップ 営業担当以外でも対応できる 顧客窓口の構築	電話連携(CTI)システム構築 (顧客管理システムと連携し検討)		業務 分析	試行/ 選定	導入/ 運用

長期視点に立った社会変革を後押しするために地元企業の「デジタル化」支援を最重要課題の一つとして位置づけ、インボイス制度への対応など、当金庫職員が事業所 DX に伴走するITデジタル化支援に積極的に取り組んでいます。

310-FY2022-05

【原則5】

四国旅客鉄道(JR 四国)が展開する日帰りツアーに観音寺市と共に企画協力を行いました。この企画は、観音寺市、JR 四国と当金庫が連携し地域固有の資源を観光コンテンツとして楽しんで頂く取り組みで、一昨年、昨年に引き続き 2022 年 11 月に第 3 回目の開催となりました。観光資源の発掘や地域の魅力発信につなげるため立ち寄り地点の選定や観光案内など“おもてなし”を行いました。



【特徴】

好天の下、福弥蒲鉾、天空の鳥居「高屋神社」、琴弾廻廊、農業法人「土緑家(どりょくか)」のロメインレタス畑、豊稔池堰堤、天水分(あめのみくまり)、道の駅とよはま、にエリア店舗の支店長が同行し、見どころを案内し、参加者の皆さんは、皆喜ばれ、両手に一杯のお土産を下げて、夕方 JR 観音寺駅を後にして帰られました。

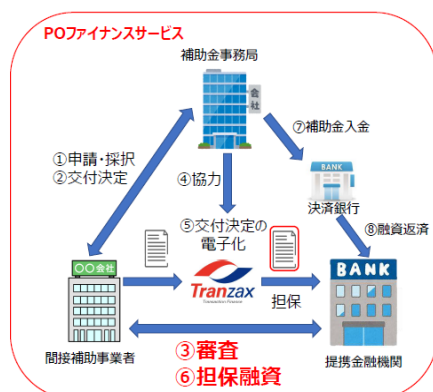
310-FY2022-06

補助金対応 PO ファイナンスの導入

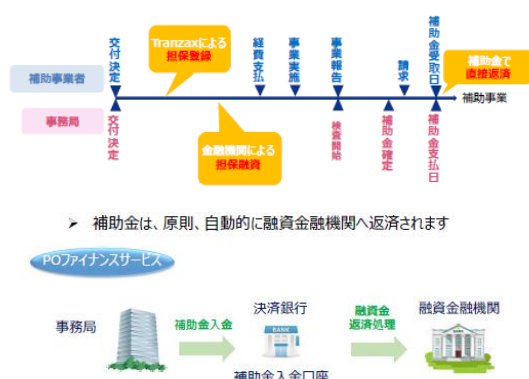
【原則 1】

当金庫では、新型コロナの影響を受けつつ、加えてウクライナ情勢の緊迫化等による原油価格・物価高騰等の経済環境の変化の影響により業況が厳しい中小企業等が行う、新型コロナをはじめとする感染症の流行など、ポストコロナ・ウィズコロナ時代の経済社会の変化に対応した、危機に強い事業への事業再構築の取組に対し、事業者の目線に合わせた伴走支援を行っています。事業再構築補助金やものづくり補助金の事業計画策定支援を積極的に行い、採択事業に対しては新たに Tranzax 株式会社と提携し最先端フィンテックに位置する「補助金対応 PO ファイナンス」を導入しました。

概要図



融資の特徴



【特徴】

補助金の交付決定通知を「電子記録債権化」して「担保」に融資を受けられるサービスです。これまで、担保がない等の理由で融資が受けられない、業歴が浅く何らかの信用補完がないと融資のテーブルに乗ることができない等事業先さまに対して補助金つなぎ資金対応の円滑化が図れました。また 2021 年 7 月 2 日には Tranzax 株式会社が提供する補助金対応 PO ファイナンス®が、SDGs 原則に沿ったソーシャル・ファイナンス(グリーン含む)として日本格付け研究所(JCR)の評価を取得しました。SDGs達成を目指す事業所のニーズに

沿った融資サービスとなっています。



補助金対応POファイナンス・フレームワークは
SDGs評価を取得しました
